

## **【保育專門課程】**

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・通年	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目(必修)	外国語		佐治 克彦
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<p>1) 語学学習: それぞれの国の言語の基礎的な内容を知る。  2) 多文化共生教育: 海外、日本の中の外国、また国だけでなく自分と異なるものを異文化と捉え、ハードルを低くして、多文化の環境に慣れていく。  3) 地球市民学習: 日本に暮らす外国籍市民の母国の背景や日本との関係を知る。  4) グローバルネットワーク: YMCAの世界的ネットワークを活用して海外の事情に触れる。  5) コミュニケーション: 対人(児童)関係において基礎となるコミュニケーションである傾聴、感情のコントロール、アサーティブな表現方法などについて知る。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
コミュニケーションの手段としての外国語を学ぶことに意欲的に取り組めるようになるために、日本と世界のつながりをさまざまな視点から学び、人権や平等、共生という現代的なテーマを考えることを目指します。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション	16 ベトナム語①	
2	韓国語①	17 ベトナム語②	
3	韓国語②	18 ベトナム語③	
4	韓国語③	19 英語①	
5	韓国語④	20 英語②	
6	韓国語⑤	21 英語③	
7	韓国語⑥	22 英語④	
8	中国語①	23 グローバルネットワーク(世界のYMCAの活動)①	
9	中国語②	24 グローバルネットワーク(世界のYMCAの活動)②	
10	中国語③	25 地球市民学習	
11	中国語④	26 SDGsの取り組みについて	
12	スペイン語①	27 多文化共生の社会①	
13	スペイン語②	28 多文化共生の社会②	
14	スペイン語③	29 多文化共生の社会③	
15	振り返りとまとめ	30 振り返りとまとめ	
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業内課題(50点)②授業への参加、授業態度(50点)			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>授業の特徴: ワークショップやディスカッションを多用します。自分で主体的に学習を進められるようになることを目指します。  教員紹介: 現地での生活経験やYMCA等の国際的な活動団体での実務経験を活かしつつ、参加型学習を目指します。</p>			

開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目(必修)	体育理論		村上 剛
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<p>①体育・運動・スポーツの目的や意義について理解する。  ②運動・スポーツの効果を理解する。  ③健康の概念について理解し、自分自身の健康観を説明することができる。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
生涯に役立つ、体育・スポーツや健康に関する一般的な理論について理解を深めていく。また、生涯スポーツの観点から、運動やスポーツの必然性について理解を深める。			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス、体育・運動・スポーツ・健康とは		
2	健康と体力の関係		
3	運動・スポーツの効果(呼吸循環器系に対する効果)		
4	運動・スポーツの効果(代謝・体温調節機能に対する効果)		
5	運動・スポーツの効果(体格に対する効果)		
6	運動・スポーツの効果(心理学的効果)		
7	運動と睡眠		
8	運動と栄養		
9	トレーニング		
10	競技スポーツ		
11	生涯スポーツ		
12	アダプテッドスポーツ		
13	運動・スポーツの指導		
14	運動・スポーツと安全		
15	まとめ(学びの振り返り)		
<b>【成績評価方法】</b>			
①筆記試験60点、②授業への参加・意欲20点、③ノートの内容(授業時に回収)20点の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
クラスで議論しながら授業をすすめていく。担当教員は、幼児から成人の健康教育指導の実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目(必修)	体育実技		村上 剛
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①幼児とのかかわりに対応できる運動技能、体力を身につける。 ②ボールゲームを通じて、運動の楽しさを体感する。 ③運動遊びを通じて、運動の楽しさを体感する。			
<b>【講義概要】</b>			
実際に自らが運動あそびやボールゲームなどを体験しながら、その楽しさを体感していく。また、体験する中で、子ども達がどのように感じながら運動を行うのか、その指導において大切な事はなにか考え、体育についての自らの考えをまとめてゆく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス、コミュニケーション行動、社会化、実体験		
2	ボディコントロール 運動あそび①		
3	ボディコントロール 運動あそび②		
4	リレーあそび 運動あそび③		
5	縄跳び運動 運動あそび④		
6	ボールゲーム①		
7	ボールゲーム②		
8	ボールゲーム③		
9	ボールゲーム④		
10	ボールゲーム⑤		
11	ボールゲーム⑥		
12	道具を使ったスポーツ①		
13	道具を使ったスポーツ②		
14	道具を使ったスポーツ③		
15	道具を使ったスポーツ④		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加50点②参加意欲50点、の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
運動あそび等の楽しさを体感しつつ、理論的な裏付けも同時に学習する。 担当教員は、幼児から成人の健康教育指導の実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目(選択必修)	キリスト教保育		鈴木 法子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
キリスト教保育への理解を深めること、実習先や就職先でキリスト教保育を实践できるようになること、さらに、キリスト教保育の考え方もとにしてキリスト教保育以外の保育現場での保育の質向上も目指せるようになることを目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
キリスト教保育について、以下の4つのテーマから学修を進める。 1. キリスト教保育とは何かを学ぶ。 2. キリスト教保育の具体的に保育実践について学ぶ。 3. キリスト教保育の具体的な方法を実践して学ぶ。 4. キリスト教保育以外の現場でキリスト教保育の考え方を生かす意義について学ぶ。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	現代社会とキリスト教保育		
3	キリスト教保育における行事		
4	キリスト教保育の実際		
5	子どもと聖書		
6	キリスト教保育の教材1		
7	キリスト教保育の教材2		
8	クリスマスの準備1		
9	クリスマスの準備2		
10	クリスマスの準備3		
11	クリスマスの準備4		
12	クリスマスを祝う		
13	お話の実演		
14	お話の実演		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加・意欲(50点)、②作品(50点)の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
授業では毎回「幼児さんびか」「こどもさんびか」等を歌う。歌うことだけではなく、楽器を演奏することも推奨する(リコーダー、鈴、カスタネット、キーボード、手作り楽器等、どのような楽器も歓迎)。 授業では覚えることよりも考えること、聴くことと語ることを重視する。講師の現場での経験をもとに制作や聖書のお話等の活動も交えキリスト教保育について具体的に学べるよう授業を進める。			

開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目(選択必修)	子どもの発育と発達		藤田 倫子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①乳幼児期の心身の発育発達について理解する。②生活習慣づくりや体力・運動能力の向上のための実践について理解する。 ③運動あそびの指導に必要な理論や知識を身につける。④乳幼児期に必要なあそびの内容を理解し、実践に必要な体力・運動能力や			
<b>【講義概要】</b>			
乳幼児期の子どもたちに必要な運動あそびを実践しながら、子どもの育ちに応じた運動指導が行えるように、関連した理論と実践を学ぶ。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション・理論学習「近年の子どもの体の異変とその対策」「子どもの生活と運動」		
2	小テスト・実践「からだを使った運動あそび(からだづくり)」		
3	実践「からだを使った運動あそび(ふれあいあそび・仲間づくり)」		
4	実践「からだを使った運動あそび(鬼ごっこ)」		
5	理論学習「幼児体育の意義と役割」「運動と安全管理」		
6	小テスト・実践「手あそび・リズムを使った運動あそび」		
7	実践「身近なものを使った運動あそび(タオル・新聞紙)」		
8	実践「用具を使った運動あそび(ボール・縄)」		
9	理論学習「子どもの発達と運動」「運動発現のメカニズム」		
10	小テスト・実践「用具を使った運動あそび(ボール・縄)」		
11	実践「用具を使った運動あそび(マット・跳び箱・平均台)」		
12	実践「コーナーあそび・サーキットあそび」		
13	理論学習「幼児体育指導上の留意事項」		
14	小テスト・実践「用具を使った運動あそび(パラシュート)」		
15	実践「運動会」・まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業内で行う小テスト4回分50点、②授業への参加・意欲50点、合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技実践を基本とするが、必要な理論については講義形式での授業を行う。主題の理解を深めるため、授業参加者が意見を交わす対話形式も取り入れ、保育に対する自らの学びを深める。 担当教員は、保育園・こども園・子育て支援の実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目(選択必修)	子どもの人権と法		田中 輝好
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①日本における「子どもの人権内容」を構造的に理解する。 ②国際条約である「子供の権利条約」を理解する。 ③事例の中に見る権利衝突を把握し考える。 ④これからの保育の課題について理解し検討する。			
<b>【講義概要】</b>			
法治国家の中にある人権という普遍性を知ることで、保育の根底をなす子どもの権利や保育をみることの理解が深まり、保育の目的について広く学ぶことができる。保育関係法規の意味や事例のあり方について基本となる知識を身に付けることで、対人関係の中にある保育の課題や保育者のあり方について学び理解を深める。			
回	授業計画および学習の内容		
1	イントロダクション①(授業計画と評価について)「人権」とは何か。		
2	イントロダクション②「法律の必要性」		
3	日本国憲法と人権の関係について①		
4	日本国憲法と人権の関係について②		
5	子供の権利条約について①		
6	子供の権利条約について②		
7	グループディスカッション「虐待と体罰」		
8	グループディスカッション「子供の貧困」「いじめ」		
9	グループディスカッション「校則」		
10	グループディスカッション「外国人の人権」		
11	グループディスカッション「障がい者の人権」		
12	保育実践の事例検討		
13	保育実践の事例検討		
14	まとめ(人権と国内法のかかわり)		
15	まとめ(子どもの権利)		
<b>【成績評価方法】</b>			
①筆記試験60点 ②授業への参加・意欲30点 ③小レポートの提出(授業時に回収)10点の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、講義の主題を深める上でディスカッション形式を取り入れ、法律の中にある権利に対する自らの学びを深める。 担当教員は政治に携わる者として、保育行政の中に見る子どもの権利衝突を中心に、授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
コンピューター I	2023年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目(選択必修)	コンピューター I		村上 剛・添田 たか子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 文章作成に支障なくタイピングができる。 2. windows(OS)の基本的な操作ができる。 3. Microsoft Word - 文書作成ツールの基本的な操作ができる。 4. Microsoft PowerPoint- プレゼンテーションツールの基本的な操作ができる。 6. ITリテラシーの基礎知識を説明できる。			
<b>【講義概要】</b>			
保育者が扱う文書はさまざまあり、その作成にも多くの時間が費やされる。この授業は、特に使用頻度の高いワープロ、プレゼンテーションといったアプリケーションを中心に学び、パソコンの操作に慣れることを目的とする。加えて、ITリテラシーについての学びも深める。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	オペレーティングシステムの操作方法・ファイル操作		
3	文書作成ツールを使用する		
4	定型文書を作成する		
5	保育にまつわる文章を作成する		
6	図を作成する(基本的な操作方法を知る)		
7	図を作成する(実際に作成する)		
8	イラストを作成する(基本的な操作方法を知る)		
9	イラストを作成する(実際に作成する)		
10	プレゼンテーション資料を作成する(基本的な操作方法を知る)		
11	プレゼンテーション資料を作成する(実際に作成する)		
12	プレゼンテーション資料を作成する(実際に作成する)		
13	プレゼンテーション		
14	表計算ツールを使用する		
15	図・表を作成する		
<b>【成績評価方法】</b>			
①定期試験(50点)、②授業への参加・意欲(50点)の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
担当教員は、実務経験に基づき授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育原理		齊藤 希世
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①保育の意義及び目的について理解し、説明することができる。 ②保育に関する法令及び制度を理解する。 ③保育所保育指針に示されている保育の基本原則を理解する。 ④保育の歴史を踏まえて現代の保育の意義を理解する。 ⑤これからの保育の課題について理解する。			
<b>【講義概要】</b>			
今日の保育を支える保育思想の源流を学び、保育の根拠をなす子どもや保育をみることの意義と目的について学ぶ。そして保育所保育指針に示された保育の意味や実践のあり方について基本となる知識を身に付ける。自らの保育者像や保育観を構築する土台を習得し、これからの保育の課題や保育者のあり方について考える。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、保育の意義①保育について考える。		
2	保育の意義②保育の社会的役割と責任		
3	子どもと保育に関する法令および制度		
4	保育の基盤としての子ども観		
5	保育所保育指針に基づく保育①保育所保育指針とは何か		
6	保育所保育指針に基づく保育②保育指針の内容		
7	保育所保育指針に基づく保育③保育指針に基づく保育の展開		
8	保育所保育の方法		
9	保育の計画・実践および評価		
10	歴史から保育を理解する①西欧の保育思想と歴史的変遷		
11	歴史から保育を理解する②日本の保育思想と歴史的変遷		
12	保育者が大切にしたい5つの保育原理		
13	多様化する保育者・保育の場、保育者のあり方考える		
14	まとめ(学びの振り返り)		
15	まとめ(理論と実践を繋ぐ)		
<b>【成績評価方法】</b>			
①試験60点、②授業への参加・意欲30点、③ノートの内容(授業時に回収)10点の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、講義の主題を深める上で授業参加者が意見を交わす対話形式を取り入れ、保育に対する自らの学びを深める。担当教員は、幼稚園・保育園・こども園・子育て支援の実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子ども家庭福祉		荒木 光
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 子どもや子育て家庭を取り巻く環境・課題について説明できる。 2. 子どもの権利や、子ども家庭福祉の理念について説明できる。			
<b>【講義概要】</b>			
保育士に求められる子ども家庭福祉に関する基礎知識(子どもや子育て家庭を取り巻く環境、子どもの人権擁護、歴史、法律・制度、現状と課題、動向と展望)を学習します。			
回	授業計画および学習の内容		
1	子ども家庭福祉とは何か		
2	子どもや子育て家庭を取り巻く環境①(子どもの生活環境の変化)		
3	子どもや子育て家庭を取り巻く環境②(子育て環境の変化)		
4	子どもや子育て家庭を取り巻く環境③(子ども・子育てに関する課題)		
5	子どもの権利		
6	子ども家庭福祉の理念		
7	子ども家庭福祉に関する法令①(児童福祉法以外の児童福祉6法)		
8	子ども家庭福祉に関する法令②(児童福祉法の概要)		
9	子ども家庭福祉に関する法令③(児童福祉法の改正)		
10	子ども家庭福祉の実施機関①(国・地方公共団体、行政組織、その他の団体)		
11	子ども家庭福祉の実施機関②(児童福祉施設)		
12	子ども家庭福祉の専門職		
13	子ども家庭福祉の歴史		
14	子育て支援と子どもに関する諸問題		
15	地域における連携・協働		
<b>【成績評価方法】</b>			
①定期試験(60点)、②授業への参加・意欲(30点)、③小テスト・小レポート(10点)の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義に加えてグループワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポート担当教員は、幼児から成人の地域医療福祉の実務経験に基づき授業を展開します。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	社会福祉		鶴 清忠
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 現代社会における社会福祉の意義、歴史的変遷、子ども家庭支援について説明できる。2. 社会福祉の制度・実施体系について説明できる。 3. 社会福祉における相談援助・利用者保護について説明できる。4. 社会福祉の動向・課題について説明できる。			
<b>【講義概要】</b>			
保育士に求められる社会福祉の基礎知識(社会福祉に関係する問題・課題、社会福祉の役割・意義・歴史、社会福祉の対象、社会福祉の実践、近年の動向・課題)について学習します。また、社会福祉における子ども家庭支援の視点についても習得できることを目指します。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、社会福祉とは何か		
2	社会福祉の歴史～欧米編～		
3	社会福祉の歴史～日本編～		
4	子どもの権利と福祉		
5	福祉のニーズと福祉サービス		
6	社会福祉を取り巻く現状		
7	子育て支援		
8	障害児・者福祉、高齢者福祉		
9	社会的養護		
10	生活困窮者福祉		
11	相談援助の基礎		
12	福祉の担い手～専門職とボランティア～		
13	福祉サービス利用者支援		
14	社会福祉再考		
15	社会福祉の動向と課題		
<b>【成績評価方法】</b>			
①定期試験(60点)、②授業への参加・意欲(30点)、③小テスト・小レポート(10点)の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義に加えてグループワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポート担当教員は、乳幼児から高齢者の地域福祉の実務経験に基づき授業を展開します。 指定テキストはありません。			

開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科	社会的養護 I		関屋 光泰
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。			
<b>【講義概要】</b>			
現代社会における社会的養護の姿から、保育・児童福祉専門職として「大切なこと」を自ら考え習得する。そのために本講義ではテキストに沿って各テーマを理解するとともに、資料などによって事例から学ぶ。社会的養護と関連する現場と教室を結びながら、対象児童の生活、家族等の背景や一人ひとりの心情を想像し、子どもたちを中心とした支援の方法や支援者の姿勢を探索する。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、今日の子どもをとりまく家庭と社会の状況について		
2	社会的養護の理念と概念、歴史の変遷		
3	子どもの人権擁護と社会的養護		
4	社会的養護の基本原則		
5	社会的養護における保育士等の倫理と責務		
6	社会的養護の制度と法体系		
7	社会的養護のしくみと実施体系		
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク		
9	社会的養護の対象と支援のあり方		
10	家庭養護と施設養護		
11	社会的養護にかかわる専門職		
12	社会的養護に関する社会的状況		
13	施設等の運営管理の現状と課題		
14	まとめ①(被措置児童等の現状と課題)		
15	まとめ②(社会的養護の現状と課題) <上記は、進捗の状況等に応じて柔軟に変更する>		
<b>【成績評価方法】</b>			
①試験70%、②授業への参加・意欲30%として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
児童自立支援施設「国立武蔵野学院」内に、厚生労働省が設置している児童自立支援専門員養成所(現「人材育成センター養成部」)の非常勤講師を勤めています。社会的養護の施設の中でも児童自立支援施設は、非行問題を中心に支援していますが、対象児童の被虐待経験、障害、生活困窮、家族問題等が背景にあります。社会的養護とは、家庭が抛り所になることが困難な子どもを社会的に養育する取り組みです。その子どもへの支援の方法、制度等を解説しながら、子どもの虐待、社会的孤立、障害、貧困等の問題と、支援の取り組みを事例も活用しながら授業を進めていきたいと思えます。			

開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育の心理学		沖石菜穂子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①子どもの発達を理解することの意義を学ぶ ②子どもの発達に関わる心理学の基礎を学ぶ ③子どもの発達支援について学ぶ			
<b>【講義概要】</b>			
子どもの発達の道筋について保育に必要な基本的な知識を得る。子どもの発達を知ることの意義を理解し、発達支援について学ぶ。また、現代に起きている子どもの育ちに関わる問題についても知識を得る。			
回	授業計画および学習の内容		
1	子どもの発達を理解することの意義		
2	子どもの発達と環境		
3	子ども観・保育観		
4	発達理論から見た子ども観		
5	社会情動的発達		
6	身体機能と運動機能の発達		
7	認知の発達		
8	言語の発達		
9	発達の遅れと偏り①		
10	発達の遅れと偏り②		
11	乳幼児の学びに関する理論		
12	不適切な養育とは何か		
13	学童期から青年期までの発達		
14	成人期から老年期までの発達		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
期末試験(100点満点)によって評価する。授業への参加・意欲・態度に大きな問題を認めた場合は減点の対象となる。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
基本は講義形式。子どもの発達を理解するために動画を使用する。担当教員の本職は臨床心理士・公認心理師。発達に問題を抱えた事例に対応してきた経験を踏まえて、授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子ども家庭支援の心理学		荒木 光
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 生涯発達に関する心理学の観点に基づき、初期経験の重要性、各ライフステージの発達の特徴と課題を説明できる。 2. 家族・家庭の意義や機能、親子関係・家族関係を発達の観点で説明できる。			
<b>【講義概要】</b>			
子ども家庭支援の実践に必要な心理学の基礎知識(生涯発達の心理学に基づく初期経験の重要性、家族・家庭の理解、子育て家庭をめぐる現状と課題、心の健康を含む子どもの精神保健)について、具体的に理解を深めます。			
回	授業計画および学習の内容		
1	生涯発達とは何か		
2	生涯発達①(乳児期)		
3	生涯発達②(幼児期)		
4	生涯発達③(学童期前期)		
5	生涯発達④(学童期後期)		
6	生涯発達⑤(青年期)		
7	生涯発達⑥(成人期)		
8	生涯発達⑦(老年期)		
9	家族・家庭の理解①(家族・家庭の意義と機能)		
10	家族・家庭の理解②(親子関係・家族関係の理解)		
11	家族・家庭の理解③(子育て経験と親としての育ち)		
12	子育て家庭に関する現状と課題①(ライフコースと仕事・子育て)		
13	子育て家庭に関する現状と課題②(多様な家庭とその理解)		
14	子どもの精神保健とその課題①(生活・生育環境とその影響)		
15	子どもの精神保健とその課題②(子どもの心の健康に関わる問題)		
<b>【成績評価方法】</b>			
①定期試験(60点)、②授業への参加・意欲(30点)、③小テスト・小レポート(10点)の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義に加えてグループワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポート担当教員は、幼児から成人の心理支援の実務経験に基づき授業を展開します。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子どもの保健		高橋 亮
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
現代の子どもを取り巻く環境は多様化しており、このような状況の中で子どもたちの心身の健康を守り、成長発達を支援する保育士・幼稚園教諭の役割は大きい。本科目では、子どものからだの仕組みや機能・特徴を学び、保育実践における保健活動で必要とされる基礎知識を学修する。また、子どもの健康を担う保育士・幼稚園教諭に求められる保健分野での役割と対応を理解する。			
<b>【講義概要】</b>			
1. 子どもへの保健活動の意義を学修する 2. 子どもの成長・発達過程における身体機能・生理機能・精神機能の変化と特徴を学修する 3. 各成長・発達時期の健康問題とそれに対する対応について学修する 4. 子どもの病気とその予防ならびに適切な対応について学修する			
回	授業計画および学習の内容		
1	子どもの保健を学ぶ意義		
2	新生児および乳児の成長・発達の特徴①(新生児・乳児期の発達の特性と健康問題)		
3	新生児および乳児の成長・発達の特徴②(新生児・乳児期の形態的側面の発達)		
4	新生児および乳児の成長・発達の特徴③(新生児・乳児期の機能的側面の発達)		
5	幼児の成長・発達の特徴①(幼児期の発達の特性と健康問題)		
6	幼児の成長・発達の特徴②(幼児期の形態的・機能的側面の発達)		
7	学童の成長・発達の特徴①(学童期の発達の特性と健康問題)		
8	学童の成長・発達の特徴②(学童期の形態的・機能的側面の発達)		
9	子どもの病気による主な症状と対応①(急性期疾患の子どもと家族の特徴)		
10	子どもの病気による主な症状と対応②(急性期疾患の子どもと家族の特徴)		
11	子どもの病気による主な症状と対応③(急性期疾患の子どもと家族の特徴)		
12	子どもの病気による主な症状と対応④(慢性期疾患の子どもと家族の特徴)		
13	子どもの病気による主な症状と対応⑤(慢性期疾患の子どもと家族の特徴)		
14	子どもの病気による主な症状と対応⑥(慢性期疾患の子どもと家族の特徴)		
15	確認テスト		
<b>【成績評価方法】</b>			
確認テスト(100点)			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、事例なども適宜取り入れて具体的に理解できるような授業を展開する。 担当教員は看護師資格と保育士資格を持ち、また小児病棟での看護師経験があるので、実務経験に基づいた授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・後期	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子どもの食と栄養		迎しのぶ
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①バランスの良い食事について理解し、自身の食事を振り返って考えることができるようになる。②五大栄養素の知識を深め、自分に必要な栄養を理解する。③離乳食について期分けや食品の種類など、時期に応じた食べ方を口腔の発達から理解し、離乳食を作ることができるようになる。④食物アレルギーな他特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。⑤食育の知識を深める。			
<b>【講義概要】</b>			
「何を、いつ、どこで、誰と、どのくらい食べるか」健康的な毎日を過ごすために、食事の知識は欠かすことができないものである。栄養の基本について理解を深め、まずは自身の食生活を充実させることが重要であり、その上で子どもの食事について考える。子どもの成長は乳児期・幼児期・学童期と心身ともに発育・発達が著しい反面、摂食機能や消化吸収能は未熟であるために、それぞれの時期に応じた栄養や調理形態を学ぶことが大切である。さらに今の子どもの食生活の現状と課題について理解を深める。			
回	授業計画および学習の内容		
1	栄養に関する基礎知識		
2	歯の発達、消化と吸収、食品成分表の使い方		
3	食品成分表の活用、摂取するエネルギーと消費するエネルギー		
4	栄養アセスメント、食品群ごとの特徴		
5	PFCバランス、五大栄養素1.炭水化物・食物繊維		
6	五大栄養素2.たんぱく質		
7	五大栄養素3.脂質、4.ビタミン、5.ミネラル		
8	食事摂取基準、献立作成		
9	小児の栄養と食生活、発育と発達		
10	実習1.調乳、離乳食1		
11	乳児期の食生活		
12	授乳・離乳の支援ガイド		
13	幼児期の食生活、生涯発達と食生活		
14	実習2.離乳食2		
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養・食育		
<b>【成績評価方法】</b>			
①*授業終了時に課す質問50点、②授業への参加・意欲10点、③試験40点、合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、献立作成などの演習、調乳・離乳食等の実習も行う。担当教員は保健センターなどでの実務経験に基づき授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容総論		水澤 聖
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①保育所保育指針を理解する。 ②保育所保育指針を理解したうえで、発達を理解した実践展開をおこなう。 ③保育現場における保育者の役割の理解を深める。			
<b>【講義概要】</b>			
保育内容を総合的にとらえる視点を養う。保育の基本、指導のあり方、領域のとらえ方を理解し、総合的に塩津することの重要性について学んでいく。子どもの生活と遊びは、子どもの発達や生活に基づき、関連しあいながら総合的に展開するものであることを学んでいくものとする。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション(講義内容について等)		
2	保育の基本		
3	保育の内容		
4	遊びを中心とした生活①(乳児)		
5	遊びを中心とした生活②(幼児)		
6	環境を通しての保育/主体性を大切に保育		
7	保育の内容を深める文化①		
8	保育の内容を深める文化②		
9	子どもの発達と保育内容①		
10	子どもの発達と保育内容②		
11	保育の多様な展開(長時間保育・配慮が必要な子への保育・多文化等)		
12	連携を踏まえた保育(家庭・地域・小学校等)		
13	保育の計画と実践・評価と記録		
14	小テストとまとめ		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①小テスト、レポート60点、②手遊びなどの発表・意欲、態度30点、③提出物10点の合計100点として、成績評価を行う。 *提出期限、その方法は厳守すること。*遅延証明書をもって遅刻とする。無い場合は欠席とする。*動きやすい服装が望ましい。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、授業参加者は積極的に保育に対する自らの学びを深める。担当教員は現場経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容演習(環境) I		鈴木 法子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
保育内容「環境」の意義を理解し、さらに、乳幼児の生活、遊び、学びの質を向上させる保育環境のあり方を理解することを目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
以下の4つのテーマから学修を進める。 1. 保育内容「環境」について学修する。 2. 「環境を通じた教育」の意義を学修する。 3. 保育における「環境」の具体的な実践を学修する。 4. 保育の質向上のための「環境」づくりを学修する。			
回	授業計画および学習の内容		
1	領域「環境」の意義と課題		
2	ねらい及び内容における「環境」		
3	子どもの発達と環境		
4	0歳児の発達と「環境」		
5	1歳以上3歳未満児の発達と「環境」		
6	3歳児以上の発達と「環境」		
7	5歳児後半の「環境」と小学校との接続		
8	自然との関わり		
9	園内環境		
10	園外環境		
11	指導計画と環境		
12	多文化・障害のある子どもの環境		
13	地域環境との関わり		
14	保育者の環境		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加・意欲(50点)、②作品(50点)の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
保育における「環境」は五領域の一つであるのみならず、日本の保育ナショナルカリキュラムの根幹となる概念である。保育における「環境」の概念を保育現場の具体的な状況に即して理解できるよう、講師の実務経験を生かして授業を進める。手作り保育教材づくり、パワーポイントの作成による授業の振り返り等を行い、学生自らが周囲の環境に主体的に働きかけながら授業に参加できるようにする。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容演習(健康) I		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
保育者は、子どもの心身の健康を保持し、安全を守ることが求められることから、子どもの心身の状態や発達状態を理解することが重要である。また、子どもを取り巻く環境が大きく変化していることも踏まえ、保育者の役割や子どもへの指導援助方法を身につけることを目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
保育内容演習(健康) Iについて、以下の4つのテーマから学習を進める。 1. 領域「健康」のねらいと内容を理解する。2. 子どもの健康をめぐる現状を理解し、健康な生活リズムの形成について具体的な保育方法を学ぶ。 3. 子どもの身体の諸機能および運動発達の特徴と意義を理解する。4. 安全管理や安全教育のあり方と指導援助方法を身につける。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	子どもの健康を取り巻く諸問題		
3	保育・幼児教育における領域「健康」の位置付け		
4	1歳以上3歳未満児における領域「健康」のねらいおよび内容の理解		
5	3歳以上児の領域「健康」のねらいおよび内容の理解		
6	子どものからだと発育・発達		
7	健康な生活リズムの理解と形成①(生活リズムの理解)		
8	健康な生活リズムの理解と形成②(活動と睡眠のバランス)		
9	健康な生活リズムの理解と形成③(食習慣の形成と食育)		
10	保育における運動遊び		
11	安全管理と安全教育		
12	健康づくり啓発ポスター・園だよりの作成①		
13	健康づくり啓発ポスター・園だよりの作成②		
14	保育者の健康観		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①確認テスト(60点)、②授業への参加・意欲・提出物(40点)の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、現代の子どもの姿や園の様子等、映像なども適宜取り入れる。 担当教員は、食育インストラクターの資格を有し、また幼稚園等の保育現場での実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容演習(人間関係) I		水澤 聖
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領をもとに、乳幼児期に育てたい人間関係とは何かを、子どもの発達段階に沿ったかわりから考える。また、現代社会において、豊かな人間関係を育むべき保育者としての役割とはどのようなことが、広い視野を持って考えることを目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
保育内容演習(人間関係) Iについて、以下の4つのテーマから学習を進める。 ①領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。②乳幼児期の人のかかわりの発達について理解する。 ③豊かな人とかかわりを育むための保育内容や、保育者の援助について理解する。④現代社会における人とかかわりの課題と保育者としての役割を検討する。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、自己と他己分析「自分と他者を知る」		
2	子どもを取り巻く社会の環境		
3	保育の基本と領域「人間関係」①		
4	保育の基本と領域「人間関係」②		
5	領域「人間関係」の「ねらい及び内容」の取り扱い		
6	0・1・2歳児の保育所における人との関わりと発達と保育者の援助		
7	3・4・5歳児の保育所における人との関わりと発達と保育者の援助		
8	遊びのなかの人とかかわり		
9	生活を通して育つ人とかかわり		
10	個と集団の育ち		
11	人との関わりを見る視点		
12	グループワークを通して集団での遊びを考える①		
13	グループワークを通して集団での遊びを考える②		
14	現代の子どもを取り巻く環境と領域「人間関係」		
15	まとめ(学びの振り返り)		
<b>【成績評価方法】</b>			
①レポート(50点) ②授業への参加(30点) ③授業での態度・提出物(20点)の合計100点として、成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
学生自身が、「自分を知り、認める」ことから他者の存在についても気付けるようにする。その上で、乳幼児期の子どもを取り巻く環境や発達特性を理解し、保育者として適切な援助方法を考えられるよう、保育現場でのエピソードや記録、実践を通して保育者の専門性を培っていく。担当教員は、幼稚園等での実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容演習(表現) I		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
保育における子どもの「表現」をどのように受け止め、理解していくのか。また、子どもの豊かな感性を育てていくには、どのような援助指導が必要なのかを考える。さらに、自分の五感の可能性を感じ取り、自己の表現力を高めていけるよう実践的な表現活動を通して学ぶことを目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
保育内容演習(表現) Iについて、以下の4つのテーマから学習を進める。 1.領域「表現」のねらいと内容を理解する。 2.子どもの発達と表現について理解する。 3.様々な表現活動を通して、子どもの豊かな感性を育む援助方法を学ぶ。 4.グループ演習を通して協調性を身に付け、また様々な表現方法に触れる。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	保育・幼児教育における領域「表現」の位置付け		
3	乳幼児期の「表現」の発達について		
4	教材研究①(ブックカバー制作)		
5	教材研究②(紙)		
6	教材研究③(クレヨン・絵の具)		
7	教材研究④(粘土)		
8	教材研究⑤(自然)		
9	教材研究⑥(おもちゃ制作)		
10	グループ演習①(壁面制作)		
11	グループ演習②(壁面制作)		
12	グループ演習③(壁面制作)		
13	グループ演習④(壁面制作)		
14	領域「表現」における今日的課題		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加・意欲(50点)②ノート内容・レポート課題(50点)《最終授業時に回収する》の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
色々な教材に触れながら様々な表現活動を体験し、子どもたちの豊かな感性を育めるような援助方法を学べるよう、実践演習形式で授業を展開する。担当教員は、おもちゃインストラクターの資格を有し、また幼稚園等の保育現場での実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容演習(言葉) I		板崎 淑子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①領域「言葉」のねらいと内容について理解する。 ②乳幼児期の言葉の発達過程について理解する。 ③保育実践における保育内容「言葉」の指導・援助の在り方を知り、活用する。			
<b>【講義概要】</b>			
子どもがどのように言葉を獲得するか、また言葉を獲得していくことは、どういう意味があるのかを理解する。一人ひとりの子どもが、生活を通して言葉や文字を伝え合う喜びを味わえる指導法を身につける。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、保育・幼児教育の基本		
2	言葉の働きと言葉を育むもの		
3	乳幼児期の言葉の発達①		
4	乳幼児期の言葉の発達②		
5	言葉の楽しさ・美しさ		
6	児童文化財の世界		
7	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」		
8	乳児保育における言葉を育む保育実践		
9	1歳以上3歳未満児の保育における言葉を育む保育実践		
10	3歳以上児の保育における言葉のやり取りを育む保育実践①		
11	3歳以上児の保育における言葉のやり取りを育む保育実践②		
12	言葉の感覚やイメージを育む保育実践		
13	文字や記号に対する感覚や興味・関心を育む保育実践		
14	領域「言葉」と10の姿		
15	領域「言葉」と特別なニーズを持つ子ども		
<b>【成績評価方法】</b>			
①確認テスト(筆記試験) 50点 ②授業への参加・意欲 30点 ③課題の提出・内容 20点 の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
言葉の獲得は、人と人とのコミュニケーションの成立にあたって必要となるものである。年齢ごとの言葉の発達過程を保育現場の子どもの言葉・保育者の関わりを踏まえて理解していく。担当教員は、保育所での実務経験に基づき授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・通年	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	音楽あそびI		江上 実里・日高 麻子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①音楽理論を知り、楽譜が読めるようにする ②多くの子どもの歌を知り、理解を深めて保育の現場で活用できるようにする ③ピアノ奏法の基礎を身につけて、子どもの歌の伴奏が弾けるようにする			
<b>【講義概要】</b>			
保育実習や保育現場において楽しい音楽あそびを展開するために必要な音楽理論の講義とピアノ伴奏(弾き歌い)の個人指導を行う。使用頻度の高い季節や生活の歌に取り組み、子どもたちが楽しく歌うための伴奏技術を身につける。毎月弾き歌いの授業内発表及び前後期とも筆記試験(音楽理論)、実技試験(ピアノ)を行う。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション	16 音楽理論⑧	
2	音楽理論①	17 ハ長調の主要3和音①	
3	音楽理論②	18 第5回 授業内発表	
4	第1回 授業内発表～人前で演奏してみよう	19 ハ長調の主要3和音②	
5	音楽理論③	20 ハ長調の主要3和音③	
6	音楽理論④	21 第6回 授業内発表	
7	第2回 授業内発表	22 歌唱①	
8	音楽理論⑤	23 歌唱②	
9	音楽理論⑥	24 第7回 授業内発表	
10	第3回 授業内発表	25 歌唱③	
11	音楽理論⑦	26 合唱	
12	まとめ(音楽理論)	27 まとめ(音楽理論)	
13	第4回 授業内発表	28 第8回 授業内発表	
14	まとめ(実技)	29 まとめ(実技)	
15	半期のまとめ(レパトリーの確認)	30 1年間のまとめ(レパトリーの確認)	
<b>【成績評価方法】</b>			
①実技試験70点、②授業への参加・授業内発表20点、③筆記試験10点の合計100点として成績評価を行う			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
保育の現場で活用できる教材を使用し、全体講義及び個人指導の形で行う。個々の音楽経験を考慮しクラス編成を行い、個人指導のもとに一年間の目標を定め学習を進める。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・通年(前期)	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	造形あそび I		塩川 岳
<b>【授業の到達目標・おびテーマ】</b>			
①あそびと造形活動を通して「上手・下手」という価値にとらわれず、個々の感性や資質を尊重し、幼児の豊かな造形表現を引き出すための保育者として ②基礎的な道具の使い方や素材の特性を知り、保育現場で活用するための素地を学ぶ。			
<b>【講義概要】</b>			
保育現場で扱う事が多い道具・素材の基礎的な知識や特性について学び、作品制作、グループディスカッション、鑑賞の時間を通して、子どもや保護者とのコミュニケーションについて考える。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	幼児の絵について(講義+演習)		
3	クレヨン・色鉛筆を素材とした活動・鑑賞		
4	絵具を素材とした活動		
5	絵具を素材とした活動・鑑賞		
6	紙を素材とした活動		
7	紙を素材とした活動・鑑賞		
8	紙を素材とした活動		
9	紙を素材とした活動・鑑賞		
10	身近材を素材とした活動		
11	身近材を素材とした活動・鑑賞		
12	身近材を素材とした活動		
13	身近材を素材とした活動		
14	身近材を素材とした活動・鑑賞		
15	前期のふりかえり・まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への出席や意欲 40% 制作や鑑賞活動 40% 発表やレポートなど 20%			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
演習を基本とし、講義および鑑賞・発表・グループディスカッションなどの主体的、対話的な授業形式を取り入れる。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・通年(後期)	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	造形あそび I		塩川 岳
<b>【授業の到達目標・おびテーマ】</b>			
①あそびと造形活動を通して「上手・下手」という価値にとらわれず、個々の感性や資質を尊重し、幼児の豊かな造形表現を引き出すための保育者として ②基礎的な道具の使い方や素材の特性を知り、保育現場で活用するための素地を学ぶ。 ③鑑賞を通して他者の表現を認め、自らの感想を自らの言葉で表明する習慣をつける			
<b>【講義概要】</b>			
保育現場で扱う事が多い道具・素材の基礎的な知識や特性について学び、作品制作、グループディスカッション、鑑賞の時間を通して、子どもや保護者とのコミュニケーションについて考える。			
回	授業計画および学習の内容		
1	季節と表現		
2	季節と表現		
3	季節と表現・鑑賞		
4	身近材を利用した造形あそび		
5	身近材を利用した造形あそび・鑑賞		
6	グループによる造形表現(1)		
7	グループによる造形表現(2)		
8	グループによる造形表現(3)		
9	グループによる造形表現(4)		
10	グループによる造形表現(5)鑑賞		
11	ねんどを素材とした活動		
12	ねんどを素材とした活動		
13	ねんどを素材とした活動		
14	ねんどを素材とした活動・鑑賞		
15	後期のふりかえり・まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への出席や意欲 40% 制作や鑑賞活動 40% 発表やレポートなど 20%			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
演習を基本とし、講義および鑑賞・発表・グループディスカッションなどの主体的、対話的な授業形式を取り入れる。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	運動・表現あそび I		木原 寛子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
子どもにとって必要な遊びとはどのようなことであるのか、また、表現や運動をすることの意味やそのことが子どもの発達や感性等にどのようにかわっていくのかを実技を通して身につけることを目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
運動・表現あそび I について、以下の4つテーマから学習を進める。 1. 現代の子どもの姿から、子どもの豊かな成長・発達に必要な運動遊びを考察する。 2. 子どもの運動遊びの実技を通して、その指導援助法を学ぶ。 3. 子どもの遊びを豊かに展開するために必要な身体表現に関する知識や技術を習得する。 4. グループワークを通して、自己表現力や協調性を高める。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	子どもの身体活動の現状と課題		
3	幼児期運動指針の概要と推進するための配慮		
4	基本的動作とその分類		
5	個から集団へ発展する運動遊び		
6	身近な素材を使った運動遊び		
7	身体表現の意義と特徴		
8	伝承遊び		
9	模倣遊び		
10	リズム遊び		
11	グループワーク①		
12	グループワーク②		
13	グループワーク③		
14	グループ発表		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加・意欲(40点)、②ノート内容(40点)、③レポート課題(20点)の合計100点として成績評価を行う			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
運動遊びや身体表現等を通して、保育者として必要な動作認識と身体能力を培っていきよう、実技形式を基本とする。また、現代の子どもの姿や園での様子等の映像を適宜取り入れていく。 担当教員は、幼児体育、身体表現を専門とし、保育士養成校での職務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	乳児保育 I		水澤 聖
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する ②保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する ③3歳未満児の発育・発達をふまえた保育の内容について理解する ④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関と連携する ⑤保育士に必要とされる乳児保育の基本を理解することをテーマとする			
<b>【講義概要】</b>			
共働き家庭が多い今日、乳児保育のニーズは高いものとなっている。乳幼児期は、人間としての基礎づくりとして、重要な時期となるため、乳児保育の理念と歴史の変遷、及び役割を学び、乳児保育に関わる倫理観や専門性について理解する。乳児の可能性を引き出すために、3歳未満児の発達過程を理解し、健やかな成長を支える生活や遊びについて学ぶ。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション:乳児保育とは何か?		
2	乳児保育の理念と課題		
3	乳児保育の現状と課題		
4	乳児保育が行われる多様な保育		
5	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育		
6	6ヶ月未満児の子どもの育ちと保育①		
7	6ヶ月未満児の子どもの育ちと保育②		
8	6ヶ月～1歳までの子どもの育ちと保育①		
9	6ヶ月～1歳までの子どもの育ちと保育②		
10	1歳～2歳までの子どもの育ちと保育①		
11	1歳～2歳までの子どもの育ちと保育②		
12	2歳～3歳までの子どもの育ちと保育①		
13	2歳～3歳までの子どもの育ちと保育②		
14	乳児保育における職員間の連携と協働		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
レポート(30点)、リアクションペーパー(30点)、授業参加(30点)、授業態度(10点)の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
0・1・2歳児がどのように育つのかを学び、一人ひとりの子どもにあたたかく丁寧に関わる大切さについて、現場の実践を紹介しながら考える。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・通年	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	障害児保育		光真坊 浩史

#### 【授業の到達目標・およびテーマ】

1. 障害児保育の現状と課題、障害児保育を支える理念について説明できる。2. 主な障害に関する状態や特性について説明できる。3. 主な障害に関する具体的な援助方法について説明できる。4. 家庭への支援や関係機関との連携・協働について説明できる。

#### 【講義概要】

障害児保育の現状と課題、障害児保育の歴史やインクルージョンの理念を学びます。様々な障害とその特性を知り、事例を通して心身の発達に応じた具体的な援助や配慮について理解を深めます。また、障害児通所支援における発達支援、家族支援や関係機関との連携の重要性について学びます。

回	授業計画および学習の内容	
1	障害児保育とは①(現状と課題)	16 障害の理解と支援(肢体不自由児の理解)
2	障害児保育とは②(インクルーシブ保育とは)	17 障害の理解と支援(肢体不自由児の支援)
3	障害とは(疾患モデルから生活モデルへ)	18 障害者スポーツと遊び
4	障害児者の権利とは	19 障害の理解と支援(発達障害(ASD)の理解)
5	障害者差別と合理的配慮の実践	20 障害の理解と支援(発達障害(ASD)の支援①)
6	障害児者のライフコース	21 障害の理解と支援(発達障害(ASD)の支援②)
7	障害児保育の制度と歩み	22 障害の理解と支援(保護者支援①)
8	障害の理解と支援(知的障害の理解)	23 障害の理解と支援(保護者支援②)
9	障害の理解と支援(知的障害の支援)	24 障害児保育と関係機関との連携
10	障害の理解と支援(視覚障害の理解)	25 障害児保育の専門的後方支援(サポートファイル)
11	障害の理解と支援(視覚障害の支援)	26 障害児支援制度の理解と実践(児童発達支援)
12	障害の理解と支援(聴覚障害の理解)	27 障害児支援制度の理解と実践(放課後等デイ)
13	障害の理解と支援(聴覚障害の支援)	28 障害児虐待の現状と対応
14	障害の理解と支援(言語障害の理解と支援)	29 障害福祉施策の新しい潮流
15	障害の理解と支援(医療的ケア児の理解と支援)	30 障害児保育の今後の展望

#### 【成績評価方法】

①定期試験(60点)、②授業への参加・意欲(30点)、③小レポート(10点)の合計100点として成績評価を行います。

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義に加えて個人・グループワークを行うことにより、主体的に学びを深められるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小レポートを課します。担当教員は、実務経験に基づき授業を展開します。

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年 集中	1単位30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育実習Ⅰ-1(保育所)		水澤 聖

#### 【授業の到達目標・およびテーマ】

1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。  
2. 子ども観察や関わり方の視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。  
3. 既習の教科目や実習指導Ⅰの景観を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。  
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価について、実際に取り組み、理解を深める。  
5. 保育士業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する。  
6. 実習における自己課題を明確化する。

#### 【講義概要】

指導計画の作成・実践・観察・記録・評価

回	授業計画および学習の内容
1	1.保育所の役割や機能の具体的な展開
2	(1)養護と教育が一体となって行われる保育。(2)保育所の社会的役割と責任
3	2.観察に基づく保育の理解
4	(1)子どもの心身の状態や活動の観察。(2)保育士等の援助や関わり。(3)保育所の生活の流れや展開の把握
5	3.子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
6	(1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育(2)入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援。(3)関係機関や地域社会との連携・協働。
7	4.指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
8	(1)全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
9	(2)作成した指導計画に基づく保育の実践と評価
10	5.保育士の業務と職業倫理
11	(1)多様な保育の展開と保育士の業務(2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理
12	6.自己課題の明確化
13	
14	
15	

#### 【成績評価方法】

①実習参加(50点)、②実習記録(50点)の合計100点として成績評価を行います。

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

現場実習と省察 担当教員は個々の課題に一緒に取り組む。

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・後期	1単位30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	実習指導Ⅰ－1		水澤 聖
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①保育実習の意義と目的を理解する。 ②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ③施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。			
<b>【講義概要】</b>			
保育士資格を取得するために必要な保育実習に向かう前に、学びを深めるための科目となる。保育実習の意義や目的を理解し、保育士としての職務内容と職業理解、子どもの最善の利益について、保育の実際即して学んでいく。実習日誌の意義や目的、書き方を学び、実習に臨めるようにする。			
回	授業計画および学習の内容		
1	保育の専門職とは		
2	保育実習の目的		
3	実習施設の概要		
4	子どもと家庭の理解		
5	実習での子どもの関わり		
6	保育所の保育環境		
7	実習での子どもの関わりと実技		
8	実習日誌 保育記録の意義と目的		
9	指導計画と記録		
10	個人調査票と実習計画の作成		
11	実習日誌①		
12	実習日誌②		
13	部分実習		
14	実習準備(実習生としての心構え・マナー)		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
提出課題・制作物(60点)、②授業への参加(30点)、③授業での態度(10点)の合計100点として、成績評価を行う。提出課題・制作物については、締め切りを守ること。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
既習科目で習得した知識・技能を活かしつつ、保育実習に向かう前に必要な子ども理解・実習日誌の書き方・部分実習指導案の書き方を学んでいく。担当教員は保育園での実務経験に基づいて授業を展開する			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・集中	1単位・45時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目(必修)	キャンプ実習Ⅰ		村上 剛
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
YMCAの組織キャンプの理解と体験を通して、自然・仲間・自己と向かう機会とする。そこから創造的、教育的実体験を得ることを目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
キャンプ実習Ⅰは、以下の3つのテーマから学習を進める。 ふさわしいふさわしい身なりと態度を身に付ける。 ①キャンプ実習に参加するにあたり、 ②キャンプを通して自然の中での生活や活動を行い、その特性 や安全管理等を学ぶ ③小集団活動を通して交流を深め、コミュニケーション能力等、その集団の成長を図る。			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス		
2	施設実習の意義目的		
3	各施設の目的や支援内容		
4	施設で暮らす子どもや利用者の理解		
5	福祉施設の実際①		
6	福祉施設の実際②		
7	福祉施設の実際③		
8	実習先に関する理解		
9	個人票と実習計画の作成		
10	施設実習の記録について①(時系列記録)		
11	施設実習の記録について②(保育の学びを深める記録とは)		
12	施設実習の記録について③(日誌を改善する)		
13	実習における倫理について		
14	実習の留意点		
15	保育の学びを深める実習にするための準備		
<b>【成績評価方法】</b>			
事前準備・取り組み(20点)、②実習への参加・意欲(30点)、③事後レポート(50点)の合計100点として、成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
東京YMCA野尻キャンプ場にて、3泊4日の集中の実習形式を主な内容とするが、事前に映像等でキャンプイメージを明確に持ち、また、そのための準備を行う。担当教員は実務経験に基づいてキャンプを展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・通年	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目(必修)	1年次セミナー		村上 剛・松原 愛作
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①専門職である保育者を目指すために一般常識を学ぶ。 ②就職に向けた知識を習得する。 ③職業訓練の場として、専門職である保育者として必要なことを身につけていくことをテーマとする。			
<b>【講義概要】</b>			
・専門職である保育者を目指すための一般常識・就職に向けた知識の習得と準備を行う。			
回	授業計画および学習の内容		
1	専門学校生として・保育者としての心構え①	16 将来設計・職業観について①	
2	専門学校生として・保育者としての心構え②	17 将来設計・職業観について②	
3	専門学校生として・保育者としての心構え③	18 将来設計・職業観について③	
4	専門学校生として・保育者としての心構え④	19 将来設計・職業観について④	
5	専門学校生として・保育者としての心構え⑤	20 将来設計・職業観について⑤	
6	専門学校生として・保育者としての心構え⑥	21 将来設計・職業観について⑥	
7	専門学校生として・保育者としての心構え⑦	22 将来設計・職業観について⑦	
8	専門学校生として・保育者としての心構え⑧	23 将来設計・職業観について⑧	
9	専門学校生として・保育者としての心構え⑨	24 将来設計・職業観について⑨	
10	専門学校生として・保育者としての心構え⑩	25 将来設計・職業観について⑩	
11	専門学校生として・保育者としての心構え⑪	26 将来設計・職業観について⑪	
12	専門学校生として・保育者としての心構え⑫	27 将来設計・職業観について⑫	
13	専門学校生として・保育者としての心構え⑬	28 将来設計・職業観について⑬	
14	専門学校生として・保育者としての心構え⑭	29 将来設計・職業観について⑭	
15	振り返りとまとめ	30 振り返りとまとめ	
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加を100点として、成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
自らが考えて学びとることを大切にし、2年後保育士として現場に立つときに必要なことを、グループワークなどで学んでいく。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・前期	1単位30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目(選択必修)	乳幼児保育実践		水澤 聖
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1.研修目的を明確に設定し、毎回の研修目標に沿い、研修に取り組む。 での学びを具体的に研修記録として書くことができる。 次の研修に活かすことができる。			
2.毎回研修目標に沿い、現場 3.毎回の研修を振り返り、自らの課題・改善点を明確にし、			
<b>【講義概要】</b>			
保育園・幼稚園・こども園・学童・障害系施設等の現場に、実際に伺います。多くの子どもたち、保育士、職員との出会いを通して、保育士としての実践力を高めることをねらいとします。			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス		
2	現場研修の目的・目標を検討する。		
3	現場研修(保育事業所)①		
4	現場研修(保育事業所)②		
5	現場研修(保育事業所)③		
6	現場研修(保育事業所)④		
7	現場研修(保育事業所)⑤		
8	現場研修(保育事業所)⑥		
9	現場研修(保育事業所)⑦		
10	現場研修(保育事業所)⑧		
11	現場研修(保育事業所)⑨		
12	現場研修(障害福祉サービス事業所)①		
13	現場研修(障害福祉サービス事業所)②		
14	現場研修(障害福祉サービス事業所)③		
15	研修ふりかえり・学のみまとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加・意欲(70点) ②レポート課題(30点)の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
本学と連携している園・施設(保育園・こども園・幼稚園・学童クラブ・児童館・放課後デイサービス事業所・障害者支援施設)に実際に伺い、子ども・利用者ともふれあいます。現場の保育士・職員から指導を受けながら、実際の保育・ケアを学び深めます。担当教員は、幼稚園等の保育現場での実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	教育原理		押切 道子

#### 【授業の到達目標・およびテーマ】

- ①教育学の基礎的な理念や知識を習得する。
- ②「教育とは何か」、「教育者とは何か」、「なぜ保育者を目指すのか」について探求し、現時点での保育観を見出す。
- ③昨今の社会問題と教育及び子どもについて、話し合いの時間をもち、保育者として社会に貢献することの意義について考える。

#### 【講義概要】

現代社会における社会的養護の姿から、保育・児童福祉専門職として「大切なこと」を自ら考え習得する。そのために本講義ではテキストに沿って各テーマを理解するとともに、資料などによって事例から学ぶ。社会的養護と関連する現場と教室を結びながら、対象児童の生活、家族等の背景や一人ひとりの心情を想像し、子どもたちを中心とした支援の方法や支援者の姿勢を探求する。

#### 回 授業計画および学習の内容

- 1 オリエンテーション(講義内容について等)
- 2 教育の変遷(西洋教育思想①)
- 3 教育の変遷(西洋教育思想②)
- 4 教育の変遷(西洋教育思想③)
- 5 海外の子どもたち①
- 6 海外の子どもたち②
- 7 教育の変遷(日本の教育思想①)
- 8 教育の変遷(日本の教育思想②)
- 9 教育に関する法制度①
- 10 教育に関する法制度②
- 11 教育の問題・課題①
- 12 教育の問題・課題②
- 13 教育の問題・課題③
- 14 まとめ(学びの振り返り)
- 15 まとめ(理論と実践をつなぐ)

#### 【成績評価方法】

- ①試験60点、②発表内容・意欲30点、③ノート(試験日に回収)10点の合計100点として、成績評価を行う。
- \* ノートは見開きA3の物を用意し、発表の際に配布する資料はB5で準備をする。\* 遅刻は欠席とみなし、遅延証明書も認めない。

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とするが、授業参加者1人一回発表をする。また、他者理解として意見を交わす対話形式も取り入れ、学びを深める。担当教員は、現場経験に基づいて、授業を展開する。

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子ども家庭支援論		齊藤 希世

#### 【授業の到達目標・およびテーマ】

- ①現代の家庭が置かれている状況を理解し、その課題を説明することができる。
- ②子どもが育つ家庭の役割を理解する。
- ③保育者としての支援の必要性を理解し、具体的に支援を支える知識を習得する。
- ④保育者や地域で行われている支援の実態を理解する。
- ⑤子ども家庭支援に関する今後の課題を具体的に説明できる。

#### 【講義概要】

現代の家庭を取り巻く社会状況を踏まえて子育て家庭の抱える困難を理解し、子どもにとって社会的支援がなぜ必要なのかを学ぶ。また保育士が子育て家庭を支援する時の目的を捉え、実践例をみながら家庭の理解と支援内容、保育者としての基本的な考え方と態度を学ぶ。

#### 回 授業計画および学習の内容

- 1 オリエンテーション:子育て支援の背景や必要性について
- 2 現代における家族と子育て
- 3 子どもの育ちに対する家族・家庭の役割
- 4 子どもの育ちにおける家庭支援の必要性
- 5 保育の専門性を活かした家庭支援の目的
- 6 子ども家庭支援の対象と内容
- 7 保育士に求められる基本的態度①相談・支援の方向性
- 8 保育士に求められる基本的態度②保護者の気持ちを理解するために
- 9 保育所利用家庭への支援
- 10 地域の子育て家庭への支援
- 11 子育て支援の政策動向
- 12 子育て支援の制度
- 13 子ども家庭支援に関する課題
- 14 まとめ(学びの振り返り)
- 15 まとめ(理論と実践を繋ぐ)

#### 【成績評価方法】

- ①試験60点、②授業への参加・意欲30点、③ノートの内容(授業時に回収)10点の合計100点として成績評価を行う。

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とするが、講義の主題を深める上で授業参加者が意見を交わす対話形式を取り入れ、保育に対する自らの学びを深める。担当教員は、幼稚園・保育園・こども園・子育て支援の実務経験に基づいて授業を展開する。

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育者論		齊藤 希世
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<p>① 保育者の具体的な役割と求められる倫理観について理解する。  ② 保育士の制度的な位置づけを理解する。  ③ 保育士の専門性や基礎的な資質能力について理解し説明できる。  ④ 保育者の連携と他職種との協働について理解する。  ⑤ 保育者としての学びの継続性とキャリア形成について理解する。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>子どもが求めている保育者と現在の日本の社会が求めている保育を考え、役割を具体的に学び理解する。その上で自分の保育者像を描き目指していく。また、保育者の専門性向上のための研修の意味と制度的な位置づけを理解し、保育職の職業的特徴について学ぶ。</p>			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション:「保育者になる」ということ		
2	保育者の役割について:子どもの思いや育ちを理解する仕事		
3	保育者の倫理について:保育士の専門的倫理と法律		
4	保育士の制度的位置づけについて		
5	保育士の専門性について①:資質・能力とは		
6	保育士の専門性について②:養護と教育が一体となった教育とは		
7	保護者や家庭と一緒に歩む仕事①:保護者への支援		
8	保護者や家庭と一緒に歩む仕事②:保護者懇談会・個人面談や相談		
9	学び合う保育者となるために①:保育者の専門性と省察		
10	学び合う保育者となるために②:チーム保育の重要性		
11	「保育者に求めること」保育園の園長から学ぶ		
12	保育者の専門性の発達について		
13	保育士のキャリア形成について		
14	まとめ(学びの振り返り)		
15	まとめ(理論と実践を繋ぐ)		
<b>【成績評価方法】</b>			
①試験60点、②授業への参加・意欲30点、③ノートの内容(授業時に回収)10点の合計100点として成績評価を行う			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義形式を基本とするが、講義の主題を深める上で授業参加者が意見を交わす対話形式を取り入れ、保育に対する自らの学びを深める。担当教員は、幼稚園・保育園・こども園等の保育現場での実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子どもの理解と援助		荒木 光
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<p>1. 子ども一人ひとりの心身の発達や、学びを把握することの意義について説明できる。  2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解するための基本となる考え方を説明できる。  3. 子どもを理解するための具体的な方法を説明できる。  4. 子どもの理解に基づく保育士の援助・態度の基本となる考え方を説明できる。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>保育士には、子ども一人ひとりの理解と、複数人の子どもから形成される集団の理解の両方が求められます。その理解に基づき、子どもと信頼関係を築きます。そして、発達を促進する経験を子ども自ら獲得していけるような援助をすることが求められます。本講義では、こうした望ましい援助の基盤である子ども理解について学びを深めます。</p>			
回	授業計画および学習の内容		
1	保育における子ども理解		
2	子どもに対する共感的理解		
3	子どもの生活・遊び		
4	人的環境としての保育者と子どもの発達		
5	子ども相互のかかわり		
6	集団における経験・育ち		
7	発達における葛藤・つまずき		
8	保育環境の理解と構成		
9	環境の変化・移行		
10	子ども理解のための観察・記録		
11	子ども理解のための職員間のコミュニケーション		
12	子ども理解のための保護者とのコミュニケーション		
13	発達の課題に応じた援助		
14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助		
15	発達の連続性と就学支援		
<b>【成績評価方法】</b>			
①定期試験(60点)、②授業への参加・意欲(30点)、③小テスト・小レポート(10点)の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義に加えてグループワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。  担当教員は、地域医療福祉・心理支援の実務経験に基づき授業を展開します。</p>			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育の計画と評価		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①保育所を理解し、保育所における内的な計画について理解をする。②保育計画と指導計画の基本を理解する。 ③発達の連続性を理解し、計画→実践→評価・省察→次の保育に活かすというサイクルを具体的に理解する。			
<b>【講義概要】</b>			
保育所保育指針を基に保育の基本的な考え方や内容に関する事項を捉え、保育の構造を学ぶ。子どもの実態に即した計画を作成し、実践することを目的とする。さらに、実践を振り返り評価し結果を踏まえた改善を次の計画へ反映するまでのサイクル、PDCAサイクルのあり方を身に付け実践につなげることを目的とする。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	保育の基本について		
3	保育所の理解		
4	全体的な計画		
5	全体的な計画から指導計画へ		
6	指導計画の作成の基本とその方法		
7	乳児の育ちと指導計画①		
8	乳児の育ちと指導計画②		
9	幼児の育ちと指導計画①		
10	幼児の育ちと指導計画①		
11	保育の実践と評価①		
12	保育の実践と評価②		
13	実践演習①		
14	実践演習②		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①課題60点、②発表10点、③授業態度30点の合計100点として、成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、講義の主題を深める上で授業参加者が意見を交わす対話形式を取り入れ、保育に対する自らの学びを深める。担当教員は、幼稚園等の保育現場での実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必須科目	乳児保育Ⅱ		染谷
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①3歳児未満の発育・発達の特徴や特性を踏まえた関わり方の基本的な考えを理解する ②養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満の子供の生活や遊びと保育の方法及び環境構成を理解する ③乳児保育における配慮の実践について理解する ④乳児保育における計画の作成について理解する			
<b>【講義概要】</b>			
乳児保育Ⅰの理論と内容を踏まえ、さらに具体的な乳児の遊び(おもちゃ・手遊び・絵本)を通じ実践に結びつけることが出来るように事例検討やディスカッションを行う			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション・乳児保育Ⅰの振り返りを行い、乳児保育の基本を確認する		
2	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり1		
3	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり2		
4	6カ月未満児の発達と保育内容		
5	6カ月～1歳3カ月未満児の発達と保育内容		
6	1歳3カ月～2歳未満の発達と保育内容		
7	2歳児の発達と保育内容		
8	保育の質を高めるための観察と記録・子どもを観察する1		
9	保育の質を高めるための観察と記録・子どもを観察する2		
10	保育の質を高めるための観察と記録・観察から子どもの成長の支援		
11	保育の質を高めるための観察と記録・子どもの発達から育ちを深め記録に残す		
12	子どもの心身の健康と安全と情緒の安定を図るため、保護者と支援を配慮を学ぶ1		
13	子どもの心身の健康と安全と情緒の安定を図るため、保護者と支援を配慮を学ぶ2		
14	個々の発達を促す生活と遊びの環境構成		
15	乳児保育のこれからと保育者に望まれるもの		
<b>【成績評価方法】</b>			
アクションペーパー(30点)・観察記録(30点)・授業参加(30点)・授業態度(10点)の合計100点とし、成績評価を行う			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
0・1・2歳児がどのように育つのかを学び、一人一人の子どもの成長発達に合わせて関わることの大切さについて、現場の様子を紹介しながら進めていく。遊びを授業で体験し、ディスカッションをし、自分のものとしていく。子どもの様子を観察し、保育者が関わることで子どもの成長の変化を学んでいく。担当教員は、認可保育所で現場経験を積み、現在保育者の人材育成を担っている。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子どもの健康と安全		高橋 亮
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<p>本科目では、実際の保育現場で必要となる子どもの健康と安全に関する基礎的知識と必要なケアの技能を身につけるための学修を行う。また、子どもの発育・発達状態を理解するとともに、子どもの病気の予防や健康教育、疾病の早期発見、救急救命処置と安全な保育環境についての知識と技術を学ぶ。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.子どもの成長発達や生理的機能の観察方法について学修する</li> <li>2.子どもの健康状態の把握および健康管理について学修する</li> <li>3.病児や体調不良の子ども、障がいをもつ子どもへの対応と必要な援助を学修する</li> <li>4.日常生活の養護にかかわる健康教育および安全教育を学修する</li> </ol>			
回	授業計画および学習の内容		
1	乳幼児期の発達の評価と健康状態の観察		
2	子どもの身体計測の測定方法		
3	子どものバイタルサインの測定方法		
4	子どもの生活環境における安全および感染予防①(子どもの事故の特徴とその対策)		
5	子どもの生活環境における安全および感染予防②(子どもの予防接種と学校感染症(小児感染症))		
6	救急処置が必要な子どもへの対応①(救命救急処置に関する基礎知識)		
7	救急処置が必要な子どもへの対応②(心肺蘇生法と気道異物除去法)		
8	健康問題が子どもと家族に及ぼす影響①		
9	健康問題が子どもと家族に及ぼす影響②		
10	子どもと家族を取り巻く環境と健康問題①		
11	子どもと家族を取り巻く環境と健康問題②		
12	災害を受けた子どもの健康問題		
13	個別の配慮を必要とする子どもへの対応		
14	保健計画の作成と活用		
15	確認テスト		
<b>【成績評価方法】</b>			
確認テスト(100点)			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義および演習形式を基本とするが、手技についてはDVD視聴なども適宜取り入れて具体的に理解できるような授業を展開する。担当教員は看護師資格と保育士資格を持ち、また小児病棟での看護師経験もあるので、実務経験に基づいた授業を展開する。</p>			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必須科目	社会的養護Ⅱ		関谷 光泰
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。</li> <li>2.施設養護及び家庭養護の実際について理解する。</li> <li>3.社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。</li> <li>4.社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。</li> <li>5.社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。</li> </ol>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>現代社会における社会的養護の姿から、保育・児童福祉専門職として「大切なこと」を自ら考え習得する。そのために本講義ではテキストに沿って各テーマを理解するとともに、資料などによって事例から学ぶ。社会的養護と関連する現場と教室を結びながら、対象児童の生活、家族等の背景や一人ひとりの心情を想像し、子どもたちを中心とした支援の方法や支援者の姿勢を探求する。</p>			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、子どもの権利擁護		
2	社会的養護における子どもの理解		
3	社会的養護の内容 ①日常生活支援		
4	社会的養護の内容 ②心理的支援		
5	社会的養護の内容 ③自立支援		
6	施設養護の生活特性および実際 ①乳児院等		
7	施設養護の生活特性および実際 ②障害児施設等		
8	家庭養護の生活特性および実際		
9	アセスメントと個別支援計画の作成		
10	記録および自己評価		
11	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践		
12	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践		
13	社会的養護におけるソーシャルワークと家庭支援(知識・技術とその応用)		
14	まとめ①(今後の社会的養護の課題と展望Ⅰ)		
15	まとめ②(今後の社会的養護の課題と展望Ⅱ) <上記は、進捗の状況等に応じて柔軟に変更する>		
<b>【成績評価方法】</b>			
①試験70%、②授業への参加・意欲30%として成績評価を行う			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>児童自立支援施設「国立武蔵野学院」内に、厚生労働省が設置している児童自立支援専門員養成所(現「人材育成センター養成部」)の非常勤講師を勤めています。社会的養護の施設の中でも児童自立支援施設は、非行問題を中心に支援していますが、対象児童の被虐待経験、障害、生活困窮、家族問題等が背景にあります。社会的養護とは、家庭が拠り所になることが困難な子どもを社会的に養育する取り組みです。その子どもへの支援の方法、制度等を解説しながら、子どもの虐待、社会的孤立、障害、貧困等の問題と、支援の取り組みを事例も活用しながら授業を進めていきたいと思えます。</p>			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子育て支援		板崎 淑子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①「子どもの育ち」につながる子育て支援のあり方とその意義について理解する。②子育て支援における保育者の役割と職務内容を把握する。③さまざまな人々と連携した支援方法の基礎を習得する。			
<b>【講義概要】</b>			
①多様な子育て家庭が存在する中で、子どもが健やかに成長するために必要な子育て支援について学ぶ。②保育者に期待されているそれぞれの家庭に沿った具体的な支援方法について理解を深めていく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、子育て支援とは		
2	子育て支援の意義		
3	子育て支援の基本的価値・倫理		
4	子育て支援の基本的姿勢		
5	子育て支援の基本的技術		
6	園内・園外との連携と社会資源		
7	記録・評価・研修		
8	日常会話を活用した子育て支援		
9	文書を活用した子育て支援		
10	行事などを活用した子育て支援		
11	環境を活用した子育て支援		
12	地域子育て支援拠点における支援		
13	入所施設における子育て支援		
14	通所施設における子育て支援		
15	まとめと今後の課題		
<b>【成績評価方法】</b>			
①確認テスト(筆記試験)50点 ②授業への参加・意欲30点 ③ワークシートの提出・内容20点 の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
保育現場で問題となっている事柄や社会問題となっている事柄に対して、保育者が対応していくために必要な知識や技術について具体的事例を通して学んでいく。担当教員は、保育所での実務経験に基づき授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年前期	1単位30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必須科目	実習指導Ⅰ-2		水澤 聖
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 福祉施設等(保育所以外)実習の意義 目的を説明できる。 2. 施設実習の内容を理解し、自らの課題を述べる事ができる。実習指導を通して自己覚知を促進する。 3. 実習における倫理・マナーを説明できる。 4. 施設実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に説明できる。			
<b>【講義概要】</b>			
保育士には、保育所以外の福祉施設や、その他の福祉サービスの現場でも実践可能な知識、技術の習得が求められます。この授業での学びと実習での学びを接合し、保育の学びを深めることを目指します。【授業計画は予定であり、学習の進捗状況に合わせて変更します】			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス		
2	施設実習の意義目的		
3	各施設の目的や支援内容		
4	施設で暮らす子どもや利用者の理解		
5	福祉施設の実際①		
6	福祉施設の実際②		
7	福祉施設の実際③		
8	実習先に関する理解		
9	個人票と実習計画の作成		
10	施設実習の記録について①(時系列記録)		
11	施設実習の記録について②(保育の学びを深める記録とは)		
12	施設実習の記録について③(日誌を改善する)		
13	実習における倫理について		
14	実習の留意点		
15	保育の学びを深める実習にするための準備		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加意欲(50点)。②レポート課題(50点)の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実習に関する講義に加えて、グループワーク等を行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・通年	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育実践演習		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 保育士として必要な専門的知識及び技術、総合的な判断力や倫理観等が習得、形成されたか自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習や研修を通じた学びに基づき、保育者の役割とは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、研究論文としてまとめて発表する			
<b>【講義概要】</b>			
これまで学んだ授業・研修・実習等を通して、自己の課題や保育者像を探求し、研究論文としてまとめる。その上で、今後に向けて取り組むべきこと及びその具体的な手段や方法を明確にし、自らの保育実践力を身に付ける。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション	16 現場研修事前学習	
2	保育とは、保育の仕事振り返る	17 現場研修①	
3	保育の場で求められる保育実践力の理解	18 現場研修②	
4	保育実践の実際と今後の課題の理解	19 研修の振り返り①	
5	研究テーマ設定に向けて①	20 現場研修③	
6	研究テーマ設定に向けて②	21 現場研修④	
7	文献検索と収集	22 研修の振り返り②	
8	研究テーマの確定	23 本論執筆③	
9	中間発表(テーマ、背景、目的)	24 本論執筆④	
10	研究方法の検討①	25 本論執筆⑤	
11	研究方法の検討②	26 本論執筆⑥	
12	研究倫理	27 本論完成・提出	
13	本論執筆①	28 発表準備	
14	本論執筆②	29 研究発表	
15	論文発表の方法	30 振り返りまとめ	
<b>【成績評価方法】</b>			
①論文提出50点②論文発表30点③現場研修報告書20点の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
前半は講義形式、後半はゼミナール形式や現場研修(乳幼児施設、学童、児童館)を行い、各自のテーマに沿って研究を進める。 担当教員は、幼稚園等の実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	地域福祉論		関屋 光泰
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
地域福祉とは、地域に暮らす子どもをはじめ全ての人々が、その人らしく安心、快適に生活ができる状況を地域の人々や、行政・民間の組織の参加によって創り出す事業である。子ども・子育て世帯、障害者、高齢者等の多様な人々と支え合う、地域づくりの活動でもある。これらは、児童に対する大人の役割として、子どもの権利条約にもうたわれているように「児童の最善の利益」を保障しなければならない。子どもの成長を地域社会が支えるため、何を行うべきかを考えていく。現代における、子どもをはじめ多様な人々が生活するコミュニティと、地域福祉の現状と課題を考える。「こども食堂」や多世代の居場所等の地域福祉活動の事例等、フィールドから実践的に学ぶ。			
<b>【講義概要】</b>			
講義全体として、次の3点を中心に学ぶ 1. 地域福祉に関連する理念、制度、歴史等 2. 地域福祉の各領域と、各地域の活動の事例、地域の子育て支援活動等のフィールドワーク 3. 子ども・子育て支援を中心とした地域福祉の課題や未来のあり方			
回	授業計画および学習の内容		
1	「地域福祉」とは何かーある地域の事例からー		
2	地域福祉活動、ボランティア、福祉社会等		
3	「こども食堂」と「フードバントリー」地域の子ども支援活動①		
4	地域福祉を支える仕組みー社会福祉協議会、民生委員児童委員、共同募金等ー		
5	子育て支援等、コミュニティの福祉的課題について		
6	障害児・者の地域生活支援、農福連携等		
7	災害ボランティア活動		
8	子どもの貧困と生活困窮世帯		
9	高齢者支援、孤立死・孤独死予防、アウトリーチ		
10	「こども食堂」と「フードバントリー」地域の子ども支援活動②		
11	地域社会におけるマイノリティの支援のあり方		
12	地域福祉の歴史ーセツルメント等ー		
13	国際協力NGOと、まちづくりNPOの現状と課題		
14	これからの地域福祉(ヤングケアラー、ひきこもり支援、福祉教育)		
15	まとめ(地域福祉の現状と課題) <上記は、進捗の状況等に応じて柔軟に変更する>		
<b>【成績評価方法】</b>			
①試験70%、②授業への参加・意欲80%として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
担当教員は、こども食堂・フードバントリーと、これらの活動のスタートアップ講座等、地域における子ども・子育て支援活動を行ってきました。1999年から横浜市の簡易宿泊所街「寿町」の地域福祉、生活困窮者の医療支援活動、精神障害者の地域生活支援等を行ってきました。上記の実践の経験、事例等を活かした授業を行います。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・通年	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	発達心理学		沖石 菜穂子

**【授業の到達目標・およびテーマ】**

①1年次「保育の心理学」で学んだことを復習しながら、子どもの発達支援について学ぶ。②「親になる」という発達について学び、親支援について理解する。③発達途上で起きる様々な問題について理解する。

**【講義概要】**

人間の生涯発達について基本的な知識を復習しながら確かなものにしていく。保護者を支援するために知識・技術を身に付ける。また、発達途上で起きる様々な問題について、保育士として必要な知識を得る。

回	授業計画および学習の内容
1	発達するとはどういうことか
2	周産期の発達(胎児期・乳児期の発達)
3	母親のメンタルヘルス
4	赤ちゃんがとらえる世界
5	コミュニケーションの発達①
6	コミュニケーションの発達②
7	関わりの中で育まれる自己
8	学童期の発達
9	幼児期・学童期に起きる習癖・行動上の問題
10	青年期の発達
11	発達の遅れと偏り
12	不適切な養育によって何が起きるのか
13	親になるということ
14	援助的な関わりについて
15	まとめ

**【成績評価方法】**

期末試験(100点満点)。授業への参加意欲・態度に大きな問題がある場合は減点の対象とする。

**【授業の特徴・形式と教員紹介】**

前半は講義形式、後半はゼミナール形式や現場研修(乳幼児施設、学童、児童館)を行い、各自のテーマに沿って研究を進める。担当教員は、幼稚園等の実務経験に基づいて授業を展開する。

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・集中	1単位・45時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目(選択必修)	キャンプ実習Ⅱ		村上 剛

**【授業の到達目標・およびテーマ】**

①運動遊びの意義や必要性を理解するとともに、乳幼児期の子どもたちが自分の体を動かす喜びや、仲間と一緒に運動する楽しさを味わうことができる運動指導の方法を身に付ける。②自己肯定感を高め、他者の存在に気づき、協調性が持てるようになるなど、社会人としての心構えを身に付ける。③自然の中で、からだを動かす喜びを感じながら、協調性を育み、運動指導の方法身に付ける。

**【講義概要】**

1泊2日のキャンプを通して、日常生活では感じられない自然とふれあいがたくさんある。そして仲間と協力し合いながら行動することで、乳幼児期の子どもたちが自分のからだを動かす喜びや仲間とともに運動する楽しさを味わうことができるようになる指導方法を身に付けていく。

回	授業計画および学習の内容
1	1)自然中でのキャンプ生活への参加。
2	2)都会では体験することのできない野外活動の体験。
3	3)運動遊びの指導方法を、様々な遊びを集中的に体験することにより、習得。
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

**【成績評価方法】**

実習全期間における参加姿勢及びレポート提出。

**【授業の特徴・形式と教員紹介】**

普段の生活では味わうことのできない1泊2日となる。自然の中でからだを動かしながら、仲間との協調性を育てていく。楽しみながら、保育者としての運動指導を学ぶことができる授業になっている。キャンプ参加費・交通費は自己負担となる。

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目(選択必修)	子どもの生活と遊び		村上 剛
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
ギター演奏を通して、その特性を理解し音楽的体験を深めていく。また、子ども達の豊かな成長につながるよう、保育者自身も楽器を通した様々な表現方法を身につけていくことを目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
ギター演奏を主とした授業内容を行い、以下の3つのテーマから学習を進める。①ギターを通して、文化としての音楽の意義・目的を学ぶ。②ギターの基本的知識・技術を身につける。③保育の現場でギターを活用できるように実践力を培う。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	ギターの基本①		
3	ギターの基本②		
4	音楽あそびのためのギターの弾き方①		
5	音楽あそびのためのギターの弾き方②		
6	音楽あそびのためのギターの弾き方③		
7	課題曲練習①		
8	課題曲練習②		
9	身体を動かす遊びのためのギターの弾き方①		
10	身体を動かす遊びのためのギターの弾き方②		
11	身体を動かす遊びのためのギターの弾き方③		
12	身体を動かす遊びのためのギターの弾き方④		
13	総合練習①		
14	総合練習②		
15	発表会		
<b>【成績評価方法】</b>			
①実技試験(70点)②授業への参加・意欲(30点)の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
ギター演奏を主とする演習形式で行う。また、それに必要なギターの基礎知識や奏法技法、演奏方法を取り入れていく。担当教員は、保育所や幼稚園およびその他の現場でのギター演奏経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子どもの造形あそび		塩川 岳
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①造形あそびの実践を通して、その意義と役割を考える。 ②自ら考え工夫して、子どもの自由な「あそび」と「造形」に寄り添い、幼児の豊かな造形表現を引き出すための保育者としての姿勢を育成する。			
<b>【講義概要】</b>			
造形あそびの実践・体験を通して、子どもの自由な「学び」や「気付き」に寄り添う姿勢を身につける。グループ活動を通してオリジナルの造形あそびを考案し、実践に役立てるスキルを身につける。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	造形あそびの実践例(講義+演習)		
3	仕組みのある造形あそび(1)		
4	仕組みのある造形あそび		
5	仕組みのある造形あそび		
6	仕組みのある造形あそび 鑑賞		
7	身辺材を使った造形あそび		
8	身辺材を使った造形あそび 鑑賞		
9	仕組みのある造形あそび(2)		
10	仕組みのある造形あそび		
11	仕組みのある造形あそび		
12	仕組みのある造形あそび		
13	仕組みのある造形あそび		
14	仕組みのある造形あそび 鑑賞		
15	ふりかえり・まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への出席や意欲 40% 制作や鑑賞活動 40% 発表やレポートなど 20%			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
演習を基本とし、講義および鑑賞・発表・グループディスカッションなどの主体的、対話的な授業形式を取り入れる。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	子どもと言葉		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①乳幼児の言葉が育つ文化的環境について理解する。②言葉の発達に関わる児童文化財に関する知識を、主体的に学ぶ。 ③児童文化財を行うにあたっての基礎的技術を実践的に習得する。④乳幼児の言葉の発達を理解し、児童文化財の実践を主体的に行っていく。			
<b>【講義概要】</b>			
乳幼児期の言葉の発達を学び、言葉と心の育ちについて実践事例を基に解説していく。また、乳幼児の心の理解をし、保育者としての専門性を習得することを目的とする。その中で、言葉の発達を促す児童文化財の意義を認識し、主体的に実践しながら学びあっていく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	言葉とは何か①		
3	言葉とは何か②		
4	言葉を豊かにする環境と児童文化財①		
5	言葉を豊かにする環境と児童文化財②		
6	絵本を選ぶ		
7	絵本の読み聞かせをしてみよう①		
8	絵本の読み聞かせをしてみよう①		
9	紙芝居を選ぶ		
10	紙芝居を演じてみよう		
11	児童文学とは何か		
12	様々な児童文化財に触れ実演しよう①		
13	様々な児童文化財に触れ実演しよう②		
14	様々な児童文化財に触れ実演しよう③		
15	まとめ(保育者はこどもにどう働きかけていくか・保育者の役割)		
<b>【成績評価方法】</b>			
①レポート・提出課題(60点)、②授業への参加(30点)、③授業への態度(10点)の合計100点として、成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
乳幼児期の子ども発達において、言葉の習得と言葉を使用しながらコミュニケーションをとることは大切なものになっていく。言葉を育む上で、絵本や紙芝居を上手に活用するために、絵本の選び方、読み聞かせを行い、実践していく。また、子どもの豊かな心と言葉を育めるよう、様々な児童文化財に触れ、実践発表をしていく。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年	2年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法		鶴 清忠
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れとともに、行事の企画や、利用者への対応、地域とのかかわり等について学び、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を把握する。			
<b>【講義概要】</b>			
・児童館・放課後児童クラブにおける日々の活動の流れ、年間を通じた活動の流れ、行事等の企画立案方法 ・小学生の仲間づくり、子育て支援活動、児童館・放課後児童クラブの基本的活動の実施方法、児童厚生員の役割			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、児童館・放課後児童クラブ(以下、「学童クラブ」と言う)とは		
2	児童館・学童クラブの歴史、1日(週・年)の流れと活動のねらい		
3	ソーシャルワークとは(総論)①		
4	ソーシャルワーク(ケースワーク)②		
5	ソーシャルワーク(グループワーク)③ 体験学習に向けて(心得等)		
6	児童館での体験学習① 学童クラブの実際		
7	児童館での体験学習② 児童館運営の実際		
8	体験学習に振り替え		
9	児童館・学童クラブと児童虐待		
10	子育て支援(乳幼児支援)の実際		
11	ソーシャルワーク(コミュニティワーク)□□、学校・地域・関係機関との連携		
12	子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案、ミニ児童館祭り準備①【演習①】		
13	児童厚生員の役割		
14	ミニ児童館祭り準備【演習②】		
15	ミニ児童館祭り実施(企画発表)【演習③】		
<b>【成績評価方法】</b>			
①試験60% ②企画立案30% ③授業への意欲10%の合計100点として成績評価を行う			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
担当教員は、乳幼児から高齢者の地域福祉の実務経験に基づき授業を展開します。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
	音楽あそびII		江上 実里
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①楽譜に記された音やリズムを理解し演奏できるようにする ②保育現場で使用される楽器の扱い方、正しい奏法を習得し演奏できるようにする ③各楽器の特性を理解し、子どもが歌う曲を合奏用に編曲し、スコアに表すことができる ④楽器あそびや歌あそびの具体的な指導方法を習得し、保育現場での実践に対応できる力を身につける			
<b>【講義概要】</b>			
保育現場の多くで行われている器楽合奏の正しい楽器の知識や奏法を身につけ、実際に演奏をしながら子どもへの指導法や楽譜の編曲方法を学ぶ。普段の生活や活動の中に歌や楽器があることを理解し、音楽あそびの指導計画を立てて実践する。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	楽器の取り扱い方と奏法		
3	楽譜作りの基礎①／保育現場におけるピアノの役割と表現		
4	楽譜作りの基礎②／絵本や劇中の効果音		
5	楽譜作りの基礎③／自然の中の音と歌		
6	器楽合奏の編成と演奏法①／物語と音楽①		
7	器楽合奏の編成と演奏法②／物語と音楽②		
8	器楽合奏の編成と演奏法③／物語と音楽③		
9	器楽合奏の編成と演奏法④／物語と音楽④		
10	器楽合奏のスコア作り①／物語の作成と実践①		
11	器楽合奏のスコア作り②／物語の作成と実践②		
12	器楽合奏のスコア作り③／物語の作成と実践③		
13	器楽合奏のスコア作り④／物語の作成と実践④		
14	物語発表		
15	器楽合奏発表		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業内発表60点、②授業への参加・意欲20点、③提出課題20点の合計100点として成績評価を行う			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義と実践活動を組み合わせて展開し、実際にグループでの演奏や発表をしながら指導法を学ぶ。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	造形あそびII		塩川 岳
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①演習を通し、自身の造形表現の経験を豊かにしていくとともに、幼児期の造形への理解を深める。 ②授業をヒントとし、子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考える。			
<b>【講義概要】</b>			
自然や偶然性など、日常にある現象や出来事などから美しさや面白さを見つけ、感じる心を育てる。造形あそびの実践・体験を通して、子どもの自由な「学び」や「気付き」に寄り添う姿勢を身につける。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	造形あそびとは何か(講義＋演習)		
3	遊びから見つける(偶然的表現)		
4	遊びから見つける(偶然的表現)		
5	遊びから見つける(光と色)		
6	遊びから見つける(光と色)		
7	遊びから見つける(つなげる)		
8	遊びから見つける(つなげる)		
9	遊びから見つける(組み合わせる)		
10	遊びから見つける(組み合わせる)		
11	グループ演習(ディスカッション)		
12	グループ演習(制作)		
13	グループ演習(制作)		
14	グループ演習(プレゼンテーション・デモンストレーション)		
15	ふりかえり・まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への出席や意欲 40% 制作や鑑賞活動 40% 発表やレポートなど 20%			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
演習を基本とし、講義および鑑賞・発表・グループディスカッションなどの主体的、対話的な授業形式を取り入れる。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・後期	単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	運動・表現あそびⅡ		藤田 倫子

**【授業の到達目標・およびテーマ】**

- ①乳幼児期に適した運動あそびを創作し、指導案を作成する。②乳幼児期の運動指導での配慮事項について理解する。  
③乳幼児期のあそびの指導に必要な、表現力や運動スキルを身につける。

**【講義概要】**

子どもの姿を予見し、スモールステップから積み上げていくあそびの進め方、主体性を引き出すあそびのポイントや環境設営、慮事項などを反映させた指導案作成と実践を行う。

回	授業計画および学習の内容
1	オリエンテーション・指導案作成「からただけを使った運動あそび」
2	指導案作成「からただけを使った運動あそび」
3	指導実践A-1①・検証
4	指導実践A-1②・検証
5	指導実践A-2①・討議
6	指導実践A-2②・討議
7	指導案作成「サーキットあそび」
8	指導案作成「サーキットあそび」
9	指導実践Bシミュレーション
10	指導実践B①・討議
11	指導実践B②・討議
12	指導実践B③・討議
13	リズム体操創作①
14	リズム体操創作②
15	リズム体操発表・まとめ

**【成績評価方法】**

- ①授業内で作成する、運動あそびの指導案およびリアクションペーパーの内容80点、  
②授業への参加・意欲20点、合計100点として成績評価を行う。

**【授業の特徴・形式と教員紹介】**

計画、実践、フィードバックの流れで授業を行う。実践後、グループ討議を行い、指導実践の振り返り、指導案に加筆訂正を行う。乳幼児期に適した運動あそびの内容であるか、対象年齢の子どもへの配慮事項を考慮した指導ができているか等、討議を行うことで理解を深めていく。担当教員は、保育園・こども園・子育て支援の実務経験に基づいて授業を展開する。

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年前期	1単位30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	実習指導Ⅱ		笹井 美佐

**【授業の到達目標・およびテーマ】**

1. 福祉施設等（保育所以外）実習の意義 目的を説明できる。  
2. 施設実習の内容を理解し、自らの課題を述べる事ができる。実習指導を通して自己覚知を促進する。  
3. 実習における倫理・マナーを説明できる。  
4. 施設実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に説明できる。

**【講義概要】**

保育士には、保育所以外の福祉施設や、その他の福祉サービスの現場でも実践可能な知識、技術の習得が求められます。この授業での学びと実習での学びを接合し、保育の学びを深めることを目指します。【授業計画は予定であり、学習の進捗状況に合わせて変更します】

回	授業計画および学習の内容
1	ガイダンス
2	施設実習の意義目的
3	各施設の目的や支援内容
4	施設で暮らす子どもや利用者の理解
5	福祉施設の実際①
6	福祉施設の実際②
7	福祉施設の実際③
8	実習先に関する理解
9	個人票と実習計画の作成
10	施設実習の記録について①（時系列記録）
11	施設実習の記録について②（保育の学びを深める記録とは）
12	施設実習の記録について③（日誌を改善する）
13	実習における倫理について
14	実習の留意点
15	保育の学びを深める実習にするための準備

**【成績評価方法】**

- ①授業への参加意欲（50点）、②レポート課題（50点）の合計100点として成績評価を行います。

**【授業の特徴・形式と教員紹介】**

実習に関する講義に加えて、グループワーク等を行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	実習指導Ⅲ		水澤 聖
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
保育実習・保育関連科目で学んだ保育の専門知識や技術を、保育現場での実体験を通して、保育者の役割を学び、保育者を志す者としての自身に向き合う。			
<b>【講義概要】</b>			
1.児童について実践を通して、理解する。 2.生活の実態にふれて、保護者支援のための知識・技術・判断力をする。 3.実習の内容について具体的に理解する 4.実習において自己の理解を深める。			
回	授業計画および学習の内容		
1	保育実習などの振り返り		
2	保育士の子育て支援		
3	今日の社会と子ども		
4	子どもと遊び		
5	児童福祉の役割を理解する		
6	子どもや利用者を受容する		
7	生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解		
8	個別支援計画等の作成と実践		
9	子ども・利用者の家族への支援と対応		
10	各施設における多様な専門職との連携・協働とは		
11	地域社会との連携・協働とは		
12	保育士の多様な業務		
13	実習日誌・記録について		
14	振り返り		
15	まとめ 保育士としての児童館の実践		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加意欲 (50点). ②レポート課題 (50点) の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
保育実践の力をより高めていけるよう、実習に関しての知識・技術の確認と事前学習を行い、実習の充実を図ります。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・通年	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	2年次セミナー		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
自己の進路についての選択や、採用試験に自信をもって取り組むことができることを目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
①学生・社会人として基本的なマナーを身につける。 ②様々な自動福祉施設の特徴を知る。 ③採用試験のポイントについて学ぶ。			
回	授業計画および学習の内容		
1	2年次学びの確認、履歴書・面接対応について①	16	卒業後のキャリアプラン①
2	2年次学びの確認、履歴書・面接対応について②	17	卒業後のキャリアプラン②
3	2年次学びの確認、履歴書・面接対応について③	18	卒業後のキャリアプラン③
4	2年次学びの確認、履歴書・面接対応について④	19	卒業後のキャリアプラン④
5	2年次学びの確認、履歴書・面接対応について⑤	20	卒業後のキャリアプラン⑤
6	2年次学びの確認、履歴書・面接対応について⑥	21	卒業後のキャリアプラン⑥
7	2年次学びの確認、履歴書・面接対応について⑦	22	卒業後のキャリアプラン⑦
8	2年次学びの確認、履歴書・面接対応について⑧	23	卒業後のキャリアプラン⑧
9	2年次学びの確認、履歴書・面接対応について⑨	24	卒業後のキャリアプラン⑨
10	2年次学びの確認、履歴書・面接対応について⑩	25	卒業後のキャリアプラン⑩
11	2年次学びの確認、履歴書・面接対応について⑪	26	卒業後のキャリアプラン⑪
12	2年次学びの確認、履歴書・面接対応について⑫	27	卒業後のキャリアプラン⑫
13	2年次学びの確認、履歴書・面接対応について⑬	28	卒業後のキャリアプラン⑬
14	2年次学びの確認、履歴書・面接対応について⑭	29	卒業後のキャリアプラン⑭
15	振り返りとまとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への参加を100点として、成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
就職活動に向けて、総合的に対策準備を行う。また、学生生活が有意義にすごせるよう、様々な行事を行う。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	子どもの文化		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
子どもは、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して、情緒的・知的な発達、あるいは社会性を涵養し、より良く生きるための基礎を獲得していく大切な時期である。そのため、子どもとの生活を通して遊びの重要性を学び、保育に活かせるよう学習することが目標である。			
<b>【講義概要】</b>			
子どもの生活と遊びについて、以下の4つのテーマから学習を進める。 1. 子どもを取り巻く環境および子どもの現状を理解する 2. 日本の伝統文化の変遷をたどり、子どもの豊かな生活とはどのようなものか考察する 3. 保育所・幼稚園等の行事を踏まえ、指導計画を立案する 4. 指導計画に基づいて実証し、保育現場で活かせるよう学びを深める			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	子どもの育ちの現状		
3	子どもの育ちの社会的背景		
4	子どもの育ちをめぐる環境の変化		
5	日本の文化と生活①		
6	日本の文化と生活②		
7	保育所・幼稚園等の行事①		
8	保育所・幼稚園等の行事②		
9	指導計画の作成①		
10	指導計画の作成②		
11	指導計画の実践①		
12	指導計画の実践②		
13	指導計画の評価①		
14	指導計画の評価②		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①レポート(40点)②制作課題(30点)③授業への参加・意欲(30点)の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
指導計画の立案や実証に関しては、必要に応じて校外学習を行う場合もある。担当教員は、保育・教育現場での実践に基づいて授業を実施する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目(選択必修)	学童保育演習		真田 祐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
学童保育(放課後児童クラブ)の必要性と目的・役割、学童保育における育成支援の内容を理解することにより、子どもの健やかな育ちとは何か、今日的に求められている子育て支援とは、学童保育のあるべき姿(求められる姿)についての理解を深めていきたい。			
<b>【講義概要】</b>			
講義およびディスカッションなどを通じて、共働き・一人親家庭の子どもたちの放課後等の生活の場である学童保育の必要性と目的・役割を学び、また、学童保育における育成支援、子どもの健やかな育ちとは何かを深めていく。実際の学童保育の実践(事例)を深めていくことで、学童保育での子どもたちの生活の様子や指導員の仕事を理解し、子どもや保護者にとってどういった学童保育が求められているのかを探求していく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス 学童保育とは何か(1)		
2	学童保育とは何か(2) 子どもにとって保護者にとって		
3	学童保育の現状、制度、歴史		
4	子どもの権利としての学童保育 子どもの権利とは		
5	支援員に求められる子ども観 権利行使の主体としての子ども理解		
6	学童保育における育成支援(1) 生活の場を与えて健やかに育てる		
7	学童保育における育成支援(2) 安心できる生活、主体的な遊びと生活		
8	子育て支援・保護者支援と学童保育の役割		
9	放課後児童支援員の仕事・役割・専門性		
10	学童保育の事例研究(1) 支援員の実践から学ぶ		
11	学童保育の事例研究(2) 支援員の実践から学ぶ		
12	学童保育の事例研究(3) 支援員の実践から学ぶ		
13	学童保育の事例研究(4) 支援員の実践から学ぶ		
14	学童保育の可能性と将来像		
15	レポート		
<b>【成績評価方法】</b>			
①レポート提出 30点 ②授業への参加・意欲・態度 30点 ③リアクションペーパー 40点の合計 100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義、事例研究、ディスカッションを通じて、今日の子どもの育ちや家庭での子育ての現状や課題も深めながら、学童保育のあり方、あるべき姿を考えていく。指導員にはどういった専門性が求められるのかも深めていきたい。学童保育の制度確立、内容づくり、普及、社会的な理解に40年近く関わってきた経験なども踏まえた講義や学生の学びの支援をしていきたい。 真田 祐(さなだ ゆたか)東京YMCA社会体育・保育専門学校、大妻女子大学及び白梅学園大学で非常勤講師(専門は学童保育研究)。2015年まで全国学童保育連絡協議会の職員(32年間勤務)。全国各地で「放課後児童支援員認定資格研修」の講師を務める。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目(選択必修)	音楽Ⅲ(ピアノ上級)		江上 実里
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①コードによる伴奏法の習得 ②歌に合わせて合図やかけ声をしながら演奏する技術を身につける			
<b>【講義概要】</b>			
音楽あそびで得た技術をさらに深め、保育現場での音楽活動にピアノを活用できる力を習得する。ハ長調、ト長調、ヘ長調のコード伴奏を中心に個人指導を行い、子どもたちが楽しく歌うための技術を身につける。弾き歌いの授業内発表及び実技試験(ピアノ)を行う。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	コードネームを知ろうーハ長調①		
3	コードネームを知ろうーハ長調②		
4	第1回 授業内発表～合図やかけ声をしながら弾けるようになるう		
5	コードネームを知ろうート長調①		
6	コードネームを知ろうート長調②		
7	第2回 授業内発表		
8	コードネームを知ろうート長調③		
9	コードネームを知ろうーヘ長調①		
10	第3回 授業内発表		
11	コードネームを知ろうーヘ長調②		
12	コードネームを知ろうーヘ長調③		
13	第4回 授業内発表		
14	まとめ(実技)		
15	まとめ(レパートリーの確認)		
<b>【成績評価方法】</b>			
①実技試験90点、②授業への参加・授業内発表10点の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
保育の現場で活用できる教材を使用し、全体講義及び個人指導の形で行う。毎月授業内発表(弾き歌い)を行い、現場を想定した環境で実践力を高める。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目(選択必修)	レクリエーション演習		村上 剛
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①レクリエーションの基本的な考え方を学ぶ。 ②レクリエーションと指導のあり方を学ぶ。 ③具体的なレクリエーションプログラムを作成し発表することが出来る。			
<b>【講義概要】</b>			
レクリエーション活動の実際を考えながら、その楽しさを理解し、様々な対象者の成長・健康に寄与するレクリエーションプログラムと指導の在り方を学ぶ。 特に直接的な指導者というだけでなく、段階に応じた指導者となるための手法や技術を学習する。また、既成概念にとらわれない幅広いレクリエーションプログラムを研究し、新しいものを創造する基本を形成する。			
回	授業計画および学習の内容		
1	レクリエーションの概念・意義と歴史		
2	レクリエーションの体験・効能と指導者		
3	指導者の資質①小グループゲームを通しての演習		
4	指導者の資質②全体ゲームを通しての演習		
5	グループワークとレクリエーション①グループの意味と役割		
6	グループワークとレクリエーション②指導者の意味と役割		
7	実技指導①指導体験演習		
8	実技指導②指導体験演習		
9	実技指導③指導体験演習		
10	実技指導④指導体験演習		
11	レクリエーションプログラムの種類と工夫		
12	プログラム企画と運営①対象別のプログラム作り		
13	プログラム企画と運営②対象別のプログラム演習		
14	プログラム企画と運営③イベントの実施演習		
15	総括・グループ発表		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業中発表50点、レポート30点、授業参加・態度20点			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
演習形式を基本とし、事前準備と演習発表を個人及びグループにて行う。 発表を行わない学生はレクリエーション参加者となり、参加した感想と評価を行う。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・集中	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目	体育指導実習		笹井 美佐

#### 【授業の到達目標・およびテーマ】

運動あそびの指導実習を通して、子どもにスポーツや運動の楽しさを伝え、幅広い指導体験を行う。また、子どもの心身の発達特性に留意しながら、子どもが多様な運動を経験できるよう、保育者としての資質や能力の向上、さらにそのための資格取得を目標とする。

#### 【講義概要】

体育指導実習について、以下の3つのテーマもって行う。

1. 保育現場等における、運動あそびやスポーツのプログラムの実際を把握するとともに、保育者・指導者としての役割や指導法を体験しながら学ぶ。
2. 運動あそびやスポーツプログラムを通して感じた自身の感動体験を子どもたちにも伝えられるようになる。

回	授業計画および学習の内容
1	1. オリエンテーション(指導計画等)
2	2. プログラムの趣旨を理解し、対象者の実態を把握する。
3	3. 指導計画案の作成を行う。
4	4. スポーツ・運動あそびの指導実習
5	5. 指導者の役割を理解し、指導法・対象者における動向の把握・施設用具の安全管理などを実践の場を通して学ぶ。
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

#### 【成績評価方法】

①事前準備・取り組み(20点)②実習への参加・意欲(50点)③事後レポート(30点)の計100点として成績評価を行う。

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

保育所・幼稚園等で行っているスポーツ指導や運動あそび、また、民間団体等が開催している親子運動等、実際の現場において指導実習を行う。また、担当教員は、幼稚園・専門学校や民間団体にてスポーツ/ダンス指導の経験があり、実務経験に基づいて展開する。

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・集中	1単位・45時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目(選択必修)	キャンプ実習Ⅲ		村上 剛

#### 【授業の到達目標・およびテーマ】

①自然の厳しさや素晴らしさを体験の中で、野外活動の意義や役割を理解する。  
②仲間との協働を通し、野外活動の体験をすることで、人間性や社会性を育む。  
③キャンプ生活の中で、野外活動の安全管理・安全教育・自己管理法を学ぶ。

#### 【講義概要】

自然の中のキャンプ場で仲間との協働や野外活動を通して、自然の厳しさや素晴らしさを体験するとともに、自己の感性を磨くことをねらいとする。

回	授業計画および学習の内容
1	1. 自然の中でのキャンプ生活への参加。(宿泊または日帰り)
2	2. 都会では体験することのできない野外活動体験。
3	3. キャンプ指導者としての役割(計画・準備・実施)を学ぶ。
4	4. 野外活動における安全管理と安全教育及び自己管理法を学ぶ。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

#### 【成績評価方法】

説明会および事前準備会、実習全期間における参加姿勢およびレポート提出。

#### 【授業の特徴・形式と教員紹介】

都会の生活では味わうことのできない自然で、厳しさも素晴らしい感じながら、キャンプ生活を行う。自然の中に身を置く中での安全面を考慮することの大切さ、自然の中での自己管理法を学んでいく。キャンプ参加費・交通費は自己負担となる。

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目(選択必修)	児童館・放課後児童クラブの機能と運営		真田 祐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
地域での子どもの生活や豊かな成長・発達にとって、児童館の果たしている役割・機能と基本的な理念、実際の運営に求められること、放課後児童クラブの目的・役割と基本的な理念、運営に求められる基本を学ぶ。			
<b>【講義概要】</b>			
今日の子どもの育ち、子育ての現状や課題を明らかにしながら、児童福祉法や精神、国が定めた「児童館ガイドライン」および「放課後児童クラブ運営指針」を理解することにより、児童館の目的・役割、機能、運営のあり方、放課後児童クラブの目的・役割、機能、運営の在り方、児童館職員、放課後児童支援員の仕事内容、子どもの育ちと保護者の子育てを支援していく理念、方法などの理解を深めていく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス 児童館・放課後児童クラブとは		
2	放課後児童クラブの目的・役割、制度、運営		
3	放課後児童クラブにおける育成支援・保護者支援		
4	児童館の目的・役割と機能		
5	子どもの育ちをめぐる課題		
6	児童館における子育て支援事業		
7	児童館における子育て支援事業		
8	児童館における地域連携事業		
9	児童厚生員の多様な業務内容		
10	子どもにとっての遊びの意義		
11	子どもと遊び(1)		
12	子どもと遊び(2)		
13	児童館の可能性		
14	まとめ 子どもの育ち、子育て支援における児童館・放課後児童クラブ		
15	レポート		
<b>【成績評価方法】</b>			
①レポート提出40点 ②授業への参加・意欲・態度30点 ③リアクションペーパー30点の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
東京都内の児童館と放課後児童クラブに勤務してきた(児童館館長経験者も含む)方にも講義をお願いしています。実際の職員の仕事について、具体的な事例なども紹介していただきながら、児童館、放課後児童クラブの役割や運営、職員の仕事の理解を深めていきます。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目(選択必修)	子どもキャンプ演習		山梨 雄一
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
野外教育キャンプにおける①基本的な考え方、意義を学ぶ、②指導者のあり方を学ぶ、③具体的なプログラムを作成し、発表することが出来る。			
<b>【講義概要】</b>			
豊かな自然環境の中で、キャンプ活動を行うことの意義と目的を理解する。幼児または小学生を対象としたキャンプの実際や安全管理についての学びを保育現場(お泊り保育など)で応用するため、実際のキャンププログラムを計画し、発表する。希望する者は、日本キャンプ協会認定キャンプインストラクター資格の取得を目指す。(別途実技講習、申請登録費用等が必要となる。)			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	野外教育キャンプの歴史		
3	野外教育キャンプ、組織キャンプとは		
4	様々な環境とキャンププログラム		
5	こどもたちにとっての野外活動		
6	野外教育キャンプにおける指導者の役割		
7	グループワークⅠ		
8	グループワークⅡ		
9	ロープワーク、テント設営		
10	レクリエーション		
11	安全思想・安全管理		
12	確認テスト		
13	キャンププログラム計画Ⅰ		
14	キャンププログラム計画Ⅱ		
15	総括・発表		
<b>【成績評価方法】</b>			
①確認テスト(50点)、②レポート、発表における評価(30点)、③授業参加への取り組み(20点)の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、野外活動団体や冒険活動に関する映像なども適宜取り入れる。担当教員は、東京都社会教育事業、専門学校や民間団体のキャンプ指導の経験があり、実務経験をもとに授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・半期	2単位
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	福祉論特講		荒木 光
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 現代社会における社会福祉の意義、歴史的変遷、子ども家庭支援について説明できる。 2. 社会福祉の制度・実施体系について説明できる。 3. 社会福祉における相談援助・利用者保護について説明できる。 4. 社会福祉の動向・課題について説明できる。			
<b>【講義概要】</b>			
保育士に求められる社会福祉の基礎知識(社会福祉に関する問題・課題、社会福祉の役割・意義・歴史、社会福祉の対象、社会福祉の実践、近年の動向・課題)について学習します。また、社会福祉における子ども家庭支援の視点についても習得できることを目指します。			
回	授業計画および学習の内容		
1	社会福祉とは何か		
2	社会福祉を取り巻く日本の現状		
3	社会福祉の主な対象と福祉ニーズ		
4	社会福祉の理念①(権利のしくみ)		
5	社会福祉の理念②(社会福祉法)		
6	社会福祉の法体系		
7	社会福祉の実施体制		
8	社会保障制度		
9	障害者福祉		
10	高齢者福祉		
11	貧困問題		
12	子ども家庭福祉		
13	相談援助の基礎		
14	福祉サービス利用者支援		
15	社会福祉の動向と課題		
<b>【成績評価方法】</b>			
①定期試験(60点)、②授業への参加・意欲(30点)、③小テスト・小レポート(10点)の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義に加えてグループワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。 担当教員(荒木)は、幼児から成人の地域福祉(療育・相談援助)の実務経験に基づき授業を展開します。 指定テキストはありません。毎回の授業で資料を配布します。			

開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・半期	2単位
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修	障害児保育特講		荒木 光
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 障害児保育を支える理念を説明できる。 2. 主な障害に関する特性を説明できる。 3. 主な障害に関する援助の具体的な方法を説明できる。 4. 家庭への支援や、関係機関との連携・協働について説明できる。 5. 障害児保育の現状と課題について説明できる。			
<b>【講義概要】</b>			
障害児保育を支える理念を踏まえ、様々な障害のある子どもの特性や心身の発達に応じた援助・配慮を学びます。事例等を通して障害児保育の実際を学び、援助の具体的な方法に関する理解を深めます。また、障害のある子どもの家庭支援や関係機関との連携を理解し、障害児保育の現状と課題を考えます。			
回	授業計画および学習の内容		
1	障害とは何か		
2	ライフステージとライフコース		
3	障害と出会う		
4	乳児期の発達		
5	幼児期の発達		
6	障害児保育の基本		
7	障害の理解と支援(発達障害の基礎知識)		
8	障害の理解と支援(ASDの特性)		
9	障害の理解と支援(ASDの支援)		
10	障害の理解と支援(ADHDの特性)		
11	障害の理解と支援(ADHDの支援)		
12	障害の理解と支援(SLDの特性)		
13	障害の理解と支援(SLDの支援)		
14	発達特性とは何か		
15	発達特性を理解した支援		
<b>【成績評価方法】</b>			
①定期試験(60点)、②授業への参加・意欲(30点)、③小テスト・小レポート(10点)の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義に加えてグループワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。 担当教員(荒木)は、幼児から成人の地域福祉(療育・相談援助)の実務経験に基づき授業を展開します。 指定テキストはありません。毎回の授業で資料を配布します。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2023年度	1年・半期	2単位
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育学		齊藤 希世
<b>【授業の到達目標およびテーマ】</b>			
1. 保育の意義及び目的について理解し、説明することができる。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針に示されている保育の基本原則を理解する。 4. 保育の歴史を踏まえて現代の保育の意義を理解する。 5. これからの保育の課題について理解する。			
<b>【講義概要】</b>			
今日の保育を支える保育思想の源流を学び、保育の根底をなす子どもや保育をみることの意義と目的について学ぶ。そして保育所保育指針に示された保育の意味や実践のあり方について基本となる知識を身に付ける。自らの保育者像や保育観を構築する土台を習得し、これからの保育の課題や保育者のあり方について考える。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、保育の意義①保育について考える。		
2	保育の意義②保育の社会的役割と責任		
3	子どもと保育に関する法令および制度		
4	保育の基盤としての子ども観		
5	保育所保育指針に基づく保育①保育所保育指針とは何か		
6	保育所保育指針に基づく保育②保育指針の内容		
7	保育所保育指針に基づく保育③保育指針に基づく保育の展開		
8	保育所保育の方法		
9	保育の計画・実践および評価		
10	歴史から保育を理解する①西欧の保育思想と歴史の変遷		
11	歴史から保育を理解する②日本の保育思想と歴史の変遷		
12	保育者が大切にしたい5つの保育原理		
13	多様化する保育者・保育の場、保育者のあり方を考える		
14	まとめ(学びの振り返り)		
15	まとめ(理論と実践を繋ぐ)		
<b>【成績評価方法】</b>			
①試験60点、②授業への参加・意欲 30点、③ノートの内容(授業時に回収) 10点の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、講義の主題を深める上で授業参加者が意見を交わす対話形式を取り入れ、保育に対する自らの学びを深める。担当教員は、幼稚園・保育園・こども園・子育て支援の実務経験に基づいて授業を展開する。			